

### 第3章 事業実施想定区域及び周囲の概況

#### ・地域特性に関する情報を把握する範囲

本事業に係る計画段階配慮事項についての検討を行うにあたり、その検討に必要な地域特性に関する情報を把握する範囲は、事業実施想定区域から概ね半径2km以内の区域を基本とし、適宜、調査対象項目により適切な範囲に設定した。

なお、情報を把握する範囲の設定は、本事業による環境への影響が最も広範囲に及ぶものとして考えられる施設の稼働(大気質：煙突排ガスの最大着地濃度出現予想距離)をもとに、次の点を勘案し設定した。

- ・「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」(平成18年9月 環境省)において、煙突排ガスによる影響の調査対象地域として、最大着地濃度出現予想距離の概ね2倍を見込んで設定した例が示されている。
- ・計画施設における最大着地濃度出現予想距離は、類似事例を参考とすると1.0km程度と考えられる(表3-1 類似事例参照)。

表3-1 類似事例

事例	作成年月	稼働年度	事業者名	処理方式	処理能力(t/日)	炉数	煙突高さ(m)	排ガス量(湿) (m <sup>3</sup> N/h・1炉あたり)	最大着地濃度出現距離(m)
東大阪都市清掃施設組合 新工場建設事業	平成22年1月	H29	東大阪都市清掃 施設組合	ストーカ式	400	2	70	62,800	1,000
北名古屋ごみ焼却工場建設事業	平成26年3月	R2	名古屋市	シャフト炉式 ガス化熔融炉	660	2	100	100,000	920
環境影響評価書 一目黒清掃工場建替事業	平成28年6月	R4(予定)	東京二十三区 清掃一部事務組合	ストーカ式	600	2	約150	102,550	約900
(仮称)新・日明工場建設事業	平成31年3月	R7(予定)	北九州市	ストーカ式	508	2	100	74,000	810

出典：各事業環境影響評価書(生活環境影響調査書)

本事業における最大着地濃度出現距離は、第5章2大気質での予測結果において、表3-1に示す類似事例と同程度の距離約752～813mとなっているが、ここでの予測は、気象条件を福岡地域気象観測所での観測データ、排ガス諸元を最新の都市圏南部工場における諸元を用いて行ったものである。

今後の準備書手続きにおける当該予測は、気象に係る現地調査結果、メーカーアンケート等により得られた排ガス諸元を用いて行う予定である。この場合においては、最大着地濃度出現距離に基づき、地域特性に関する情報を把握する範囲について、見直しの必要性を検討する。

#### ・情報の把握時点

地域特性に関する情報は、原則として、令和3年3月末現在で入手可能な既存資料により把握した。

# 1 自然的状況

## 1.1 大気環境の状況

### 1) 気象

事業実施想定区域に近い地域気象観測所としては、福岡地域気象観測所（気温、雨、日照：福岡市中央区大濠、風：福岡市中央区六本松）があげられ、事業実施想定区域との距離は約7.6kmである（図3.1.1-1）。

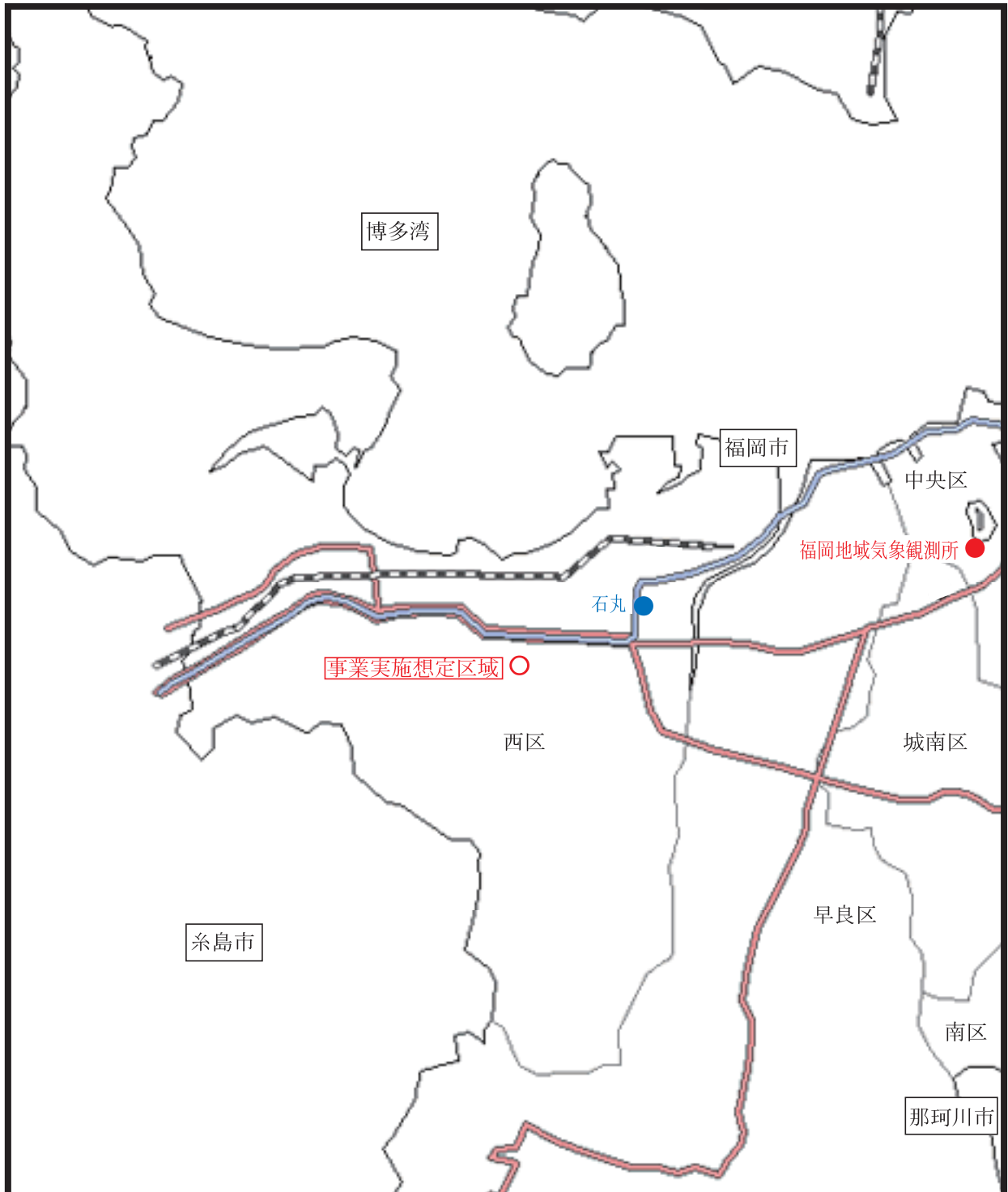
気象状況は表3.1.1-1に示すとおりである。降水量は年により差はあるが過去10年での平均1,774.6mm、気温は同じく17.5℃、平均湿度は69%、平均風速は2.9m/s、最多風向は北となっている。

表 3.1.1-1 気象の状況（福岡地域気象観測所）

年 月	降水量(mm)				気温(℃)			湿度(%)		風速 (m/s)	最多 風向 注1	全天日射量 (MJ/m <sup>2</sup> )	雲量
	合計	最大			平均			平均	最小				
		日	1時間	10分間	日平均	日最高	日最低						
平成22	1,729.0	151.0	55.5	15.5	17.5	21.5	14.2	65	13	2.9	北)	12.8	6.9
23	1,849.0	109.0	42.5	14.5	17.1	21.1	13.9	68	14	3.0	北)	12.4	7.2
24	1,768.5	126.5	55.0	19.0	17.0	20.9	13.8	67	12	3.0	北)	12.3	7.2
25	1,801.5	153.5	72.5	22.0	17.7	21.8	14.3	66	11	3.0	北)	13.3	6.5
26	1,765.5	105.0	34.0	13.0	17.1	21.2	13.8	69	10	2.9	北)	12.3	7.1
27	1,867.5	75.5	46.5	21.0	17.3	21.3	14.1	71	12	2.8	北)	13.3	7.1
28	2,420.5	142.0	41.5	17.0	18.1	22.1	14.8	73	13	2.7	北)	13.3	7.5
29	1,318.5	82.5	25.0	9.5	17.6	21.6	14.2	69	14	2.8	北)	14.3	7.0
30	1,617.0	236.0	45.0	13.5	17.7	21.8	14.3	69	12	2.8	北)	14.2	6.6
31(令和元年)	1,608.5	130.5	37.5	14.0	17.9	22.1	14.6	70	15	2.7	北)	13.8	6.9
1月	54.5	29.0	8.0	4.5	8.0	11.7	4.4	65	30	2.5	南東)	8.8	6.5
2	41.5	10.5	3.5	1.0	9.4	13.3	6.3	65	24	2.6	南東)	10.4	7.3
3	99.5	37.0	6.0	2.5	11.9	16.1	8.3	63	17	3.0	北)	15.4	6.8
4	103.0	29.5	11.0	3.5	15.4	19.8	11.9	67	20	2.9	北)	17.4	6.5
5	42.0	24.5	13.5	3.5	21.1	26.4	16.7	58	15	2.7)	南東)	21.3	6.7
6	94.0	37.5	13.5	3.0	23.4	27.8	20.2	74	44	3.1	北)	19.4	7.7
7	295.5	93.0	37.5	14.0	26.4	29.9	24.0	81	52	2.4	北)	14.8	8.1
8	497.0	130.5	35.0	13.5	28.0	31.9	25.2	76	38	2.6	南東)	14.8	7.7
9	136.0	50.0	18.0	12.5	25.9	29.9	23.0	76	40	2.9	北)	14.4	7.3
10	136.5	51.0	11.5	4.5	20.5	24.4	17.3	73	33	3.0	北)	12.1	6.3
11	29.0	12.0	10.0	4.5	14.9	19.4	11.0	68	29	2.4	南東)	10.4	4.9
12	80.0	31.5	8.0	3.0	10.3	14.1	6.9	68	35	2.4	南東)	6.4	7.3
過去10年	1,774.6	236.0	72.5	22.0	17.5	21.5	14.2	69	13	2.9	北)	13.2	7.0

注：表中の“)”は、準正常値と示す。準正常値とは「統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。」を示す。

出典：過去の気象データ（気象庁ホームページ）



凡例

- : 事業実施想定区域
- : 気象観測所  
 注1: 気温、雨、日照: 福岡市中央区大濠  
 注2: 風: 福岡市中央区六本松  
 注3: 事業実施想定区域からの距離 約7.6km
- : 自動車排出ガス測定局 (風向風速観測地点)  
 注1: 事業実施想定区域からの距離 約2.2km



「Craft MAP (<http://www.craftmap.box-i.net>) を加工して作成」

図3. 1. 1-1 福岡地域気象観測所等の位置

なお、風向頻度についてみると表 3.1.1-2 及び図 3.1.1-2 に示すとおり、福岡地域気象観測所では北に次いで南東の風の出現率が高く、大気常時監視測定局（石丸：自動車排出ガス測定局）では、南南東、南東の風の出現率が高くなっている。

表 3.1.1-2(1/2) 風向出現率（福岡地域気象観測所）

単位：m/s, %

年 月	平均風速	風向別観測率																
		静穏	北北東	北東	東北東	東	東南東	南東	南南東	南	南南西	南西	西南西	西	西北西	北西	北北西	北
平成31(令和元年)	2.7	0.4	6.3	2.5	1.1	1.7	6.0	15.6	9.3	4.1	4.4	5.0	4.5	3.8	4.0	5.0	9.6	16.6
1月	2.5	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	0.4	1.4	1.1	0.4	0.6	0.6	0.5	0.4	0.7	0.7	0.8	0.6
2月	2.6	0.0	0.6	0.4	0.1	0.1	0.4	1.0	0.6	0.3	0.3	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	1.0
3月	3.0	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1	0.4	0.9	0.8	0.4	0.4	0.4	0.5	0.7	0.7	0.5	0.8	1.1
4月	2.9	0.0	0.5	0.1	0.0	0.1	0.4	1.2	0.6	0.2	0.3	0.3	0.4	0.2	0.4	0.6	1.1	1.7
5月	2.7	0.1	0.3	0.1	0.1	0.2	0.6	1.8	0.9	0.3	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.5	1.0	1.4
6月	3.1	0.0	0.7	0.1	0.1	0.0	0.3	0.7	0.5	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	0.3	0.4	0.9	2.7
7月	2.4	0.0	0.4	0.1	0.1	0.2	0.5	1.3	0.6	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	0.5	1.1	1.6
8月	2.6	0.0	0.3	0.1	0.1	0.2	0.8	1.7	1.0	0.5	0.3	0.4	0.4	0.3	0.2	0.3	0.5	1.3
9月	2.9	0.0	0.9	0.4	0.1	0.1	0.5	1.4	0.8	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.3	0.5	1.9	
10月	3.0	0.1	1.1	0.3	0.1	0.1	0.2	0.7	0.6	0.4	0.5	0.8	0.6	0.3	0.2	0.3	0.7	1.6
11月	2.4	0.0	0.5	0.4	0.1	0.2	0.5	1.4	0.9	0.4	0.4	0.5	0.2	0.3	0.2	0.1	0.8	1.1
12月	2.4	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.8	2.0	0.8	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	1.0	0.6

注：1) 静穏 風速0.3m/s未満をいう。  
 2) 表中の“)”は、準正常値を示す。準正常値とは、「統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。」

出典：過去の気象データ（気象庁ホームページ）

表 3.1.1-2(2/2) 風向出現率（石丸：自動車排出ガス測定局）

単位：%

風向別観測率																
北	北北東	北東	東北東	東	東南東	南東	南南東	南	南南西	南西	西南西	西	西北西	北西	北北西	CALM
10.9	4.6	1.6	1.7	3.2	6.6	12.3	16.0	1.5	0.3	0.3	3.5	9.2	2.7	3.5	8.6	13.5

注：CALM 風速0.4m/s以下をいう。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

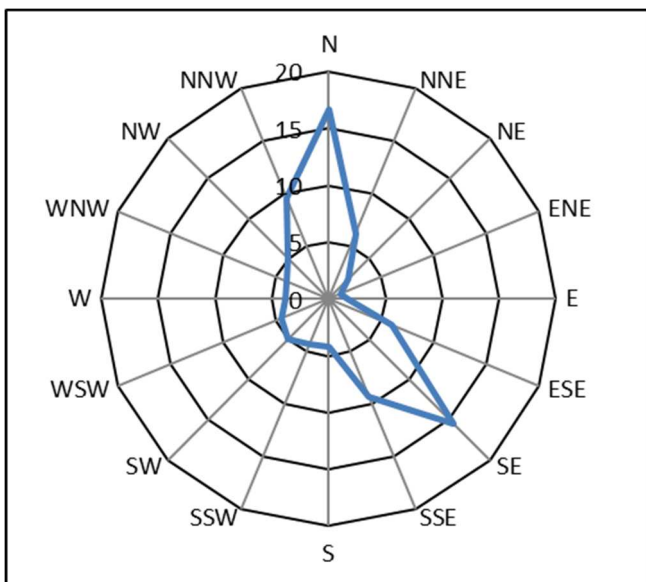


図 3.1.1-2(1/2) 風配図（福岡地域気象観測所）

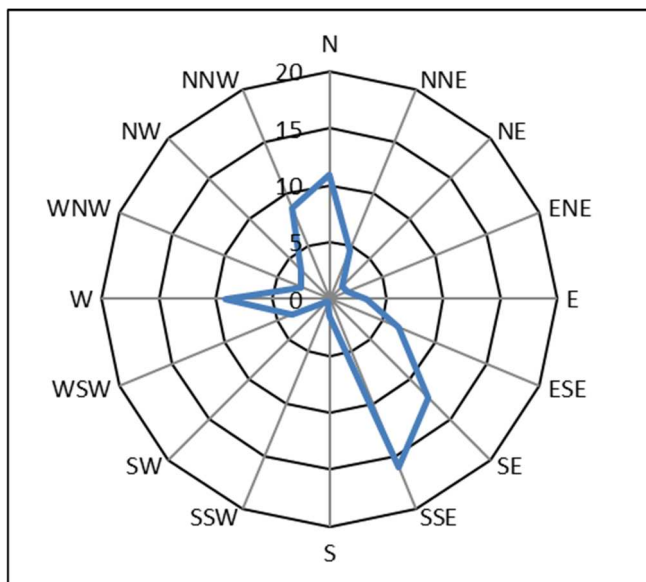


図 3.1.1-2(2/2) 風配図（石丸：自動車排出ガス測定局）

## 2) 大気質

### (1) 大気環境の状況

事業実施想定区域に近い一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）としては、祖原(西)測定局、元岡測定局があげられるが、測定項目等を考慮して市役所測定局における測定結果をあわせて整理することとした。また、同様に自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）としては、石丸測定局及び今宿測定局があげられるが、西新測定局における測定結果をあわせて整理することとした。

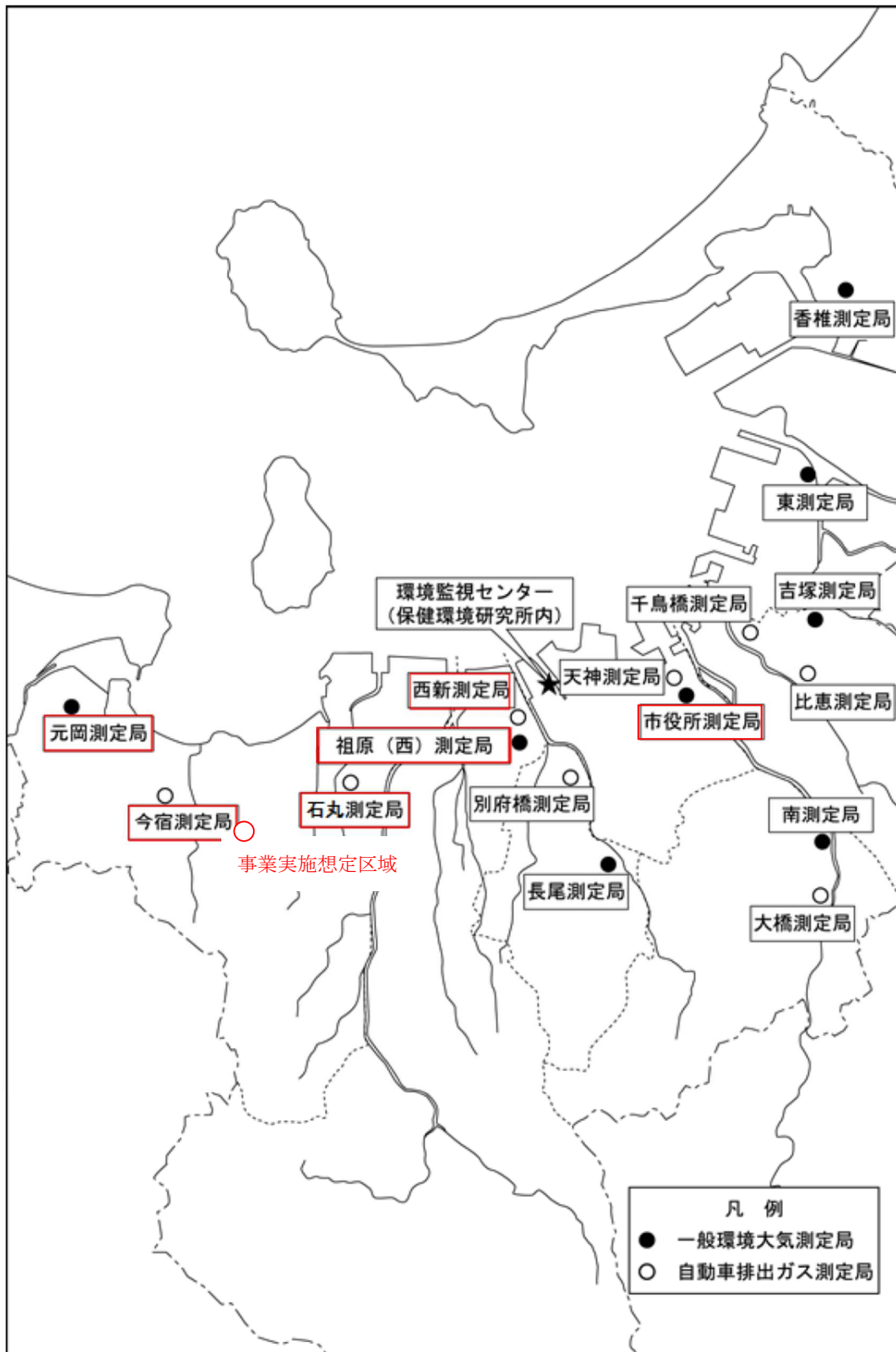
各測定局等における測定項目は表 3. 1. 1-3 に、事業実施想定区域とそれぞれの測定局の位置関係は図 3. 1. 1-3 に示すとおりである。

表 3. 1. 1-3 各測定局等における測定項目

測定局等		測定項目	二酸化硫黄	窒素酸化物	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	有害大気汚染物質	ダイオキシン類	事業実施想定区域からの距離(km)
一般局	市役所		○	○	○	○	○	-	○	10.2
	祖原(西)		○	○	○	○	-	-	-	5.8
	元岡		-	○	○	○	○	-	○	4.5
自排局	西新		-	○	-	○	○	○	○	6.2
	石丸		-	○	○	○	○	-	-	2.1
	今宿		-	○	-	○	-	-	-	1.9

注：測定している項目は○、測定していない項目は-を記載した。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局



注：赤枠の測定局について測定結果を整理した。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局に加筆

図 3.1.1-3 各測定局の位置

### ① 二酸化硫黄

令和元年度における二酸化硫黄（SO<sub>2</sub>）の測定結果は、表 3.1.1-4 に示すとおりであり、環境基準（長期的評価）を達成していた。また、経年変化は、図 3.1.1-4 に示すとおり横ばいにある。

表 3.1.1-4 二酸化硫黄の測定結果

区分	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.10ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた時間数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	達成状況 <sup>注</sup>	環境基準
					時間	%	日	%					
一般局	市役所	360	8,624	0.002	0	0.0	0	0.0	0.034	0.007	○	○	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
	祖原(西)	362	8,670	0.001	0	0.0	0	0.0	0.027	0.005	○	○	

注：年間の1時間値の日平均値の2%除外値が0.04ppm以下であり、かつ日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続しない場合は○、非達成の場合は×を記載している（長期的評価）。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

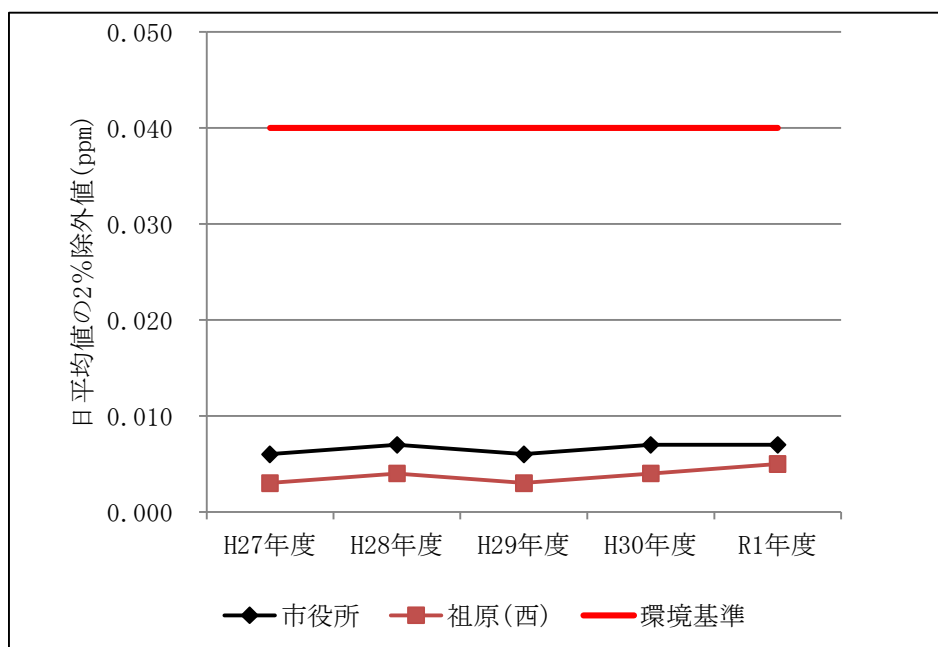


図 3.1.1-4 二酸化硫黄の経年変化

## ② 二酸化窒素

令和元年度における二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) の測定結果は、表 3. 1. 1-5 に示すとおりであり、一般局、自排局ともに環境基準（長期的評価）を達成していた。また、経年変化は、図 3. 1. 1-5 に示すとおり横ばいにある。

表 3. 1. 1-5 二酸化窒素の測定結果

区分	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	達成状況 <sup>注</sup>	環境基準
						日	%	日	%			
一般局	市役所	331	7,958	0.013	0.066	0	0.0	0	0.0	0.025	○	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
	祖原(西)	365	8,692	0.008	0.049	0	0.0	0	0.0	0.020	○	
	元岡	366	8,700	0.005	0.042	0	0.0	0	0.0	0.014	○	
自排局	西新	366	8,704	0.012	0.051	0	0.0	0	0.0	0.023	○	
	石丸	365	8,690	0.008	0.043	0	0.0	0	0.0	0.017	○	
	今宿	364	8,683	0.008	0.044	0	0.0	0	0.0	0.016	○	

注：年間の1時間値の日平均値の98%値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下である場合は○、非達成の場合は×を記載している（長期的評価）。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

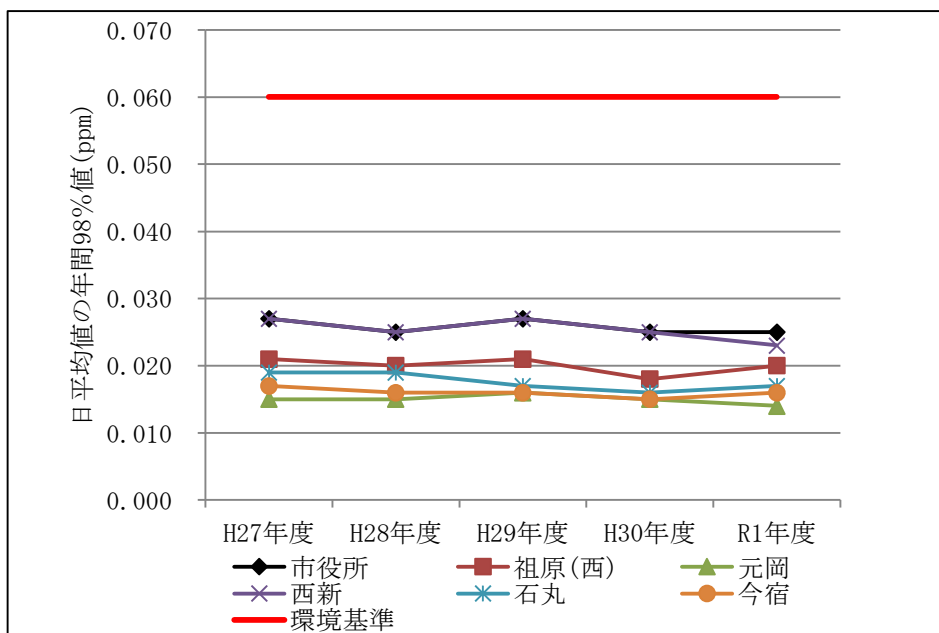


図 3. 1. 1-5 二酸化窒素の経年変化



### ③ 光化学オキシダント

令和元年度における光化学オキシダントの測定結果は、表 3.1.1-6 に示すとおりであり、一般局、自排局ともに環境基準（短期的評価）を達成していなかった。また、昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数についての経年変化は、図 3.1.1-6 に示すとおり各年度での変動が比較的大きい。

表 3.1.1-6 光化学オキシダントの測定結果

区分	測定局	昼間測定日数	昼間測定時間	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間		昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の年平均値	達成状況 <sup>注</sup>	環境基準
		日	時間	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm		
一般局	市役所	359	5,332	0.034	59	302	0	0	0.115	0.046	×	1時間値が0.06ppm以下であること。
	祖原(西)	366	5,457	0.035	74	453	0	0	0.117	0.047	×	
	元岡	366	5,467	0.038	83	520	1	1	0.129	0.051	×	
自排局	石丸	351	5,219	0.032	37	181	0	0	0.109	0.043	×	

注：1時間値が0.06ppm以下である場合は○、非達成の場合は×を記載している（短期的評価）。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

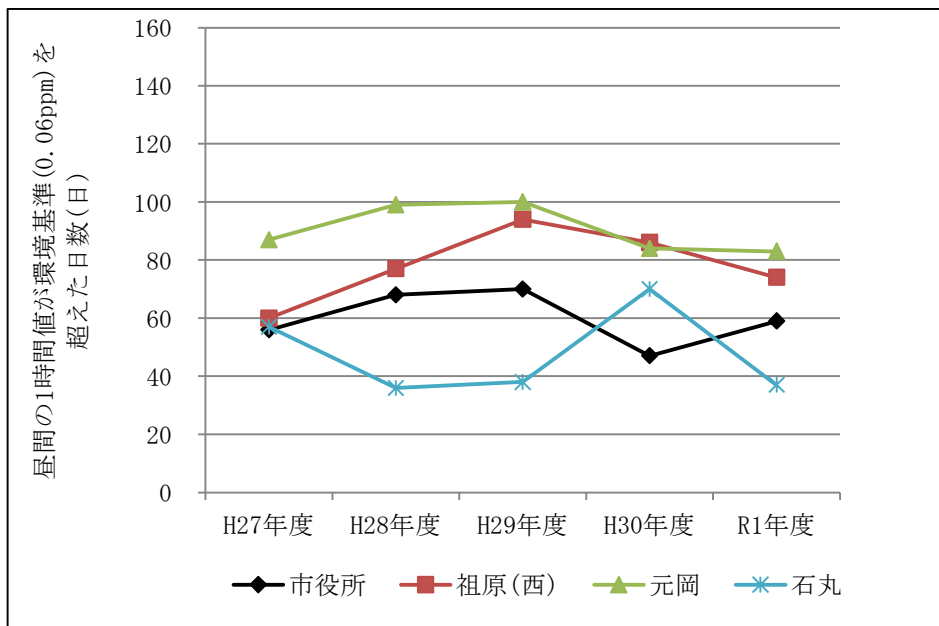


図 3.1.1-6 光化学オキシダントの経年変化

#### ④ 浮遊粒子状物質

令和元年度における浮遊粒子状物質（SPM）の測定結果は、表 3.1.1-7 に示すとおりであり、一般局、自排局ともに環境基準（長期的評価）を達成していた。また、経年変化は、図 3.1.1-7 に示すとおり減少傾向にある。

表 3.1.1-7 浮遊粒子状物質の測定結果

区分	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた時間数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日が2日以上連続したことの有無	達成状況 <sup>注</sup>	環境基準
					時間	%	日	%					
一般局	市役所	358	8,669	0.021	0	0.0	0	0.0	0.100	0.044	○	○	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
	祖原(西)	345	8,329	0.017	0	0.0	0	0.0	0.078	0.038	○	○	
	元岡	364	8,739	0.018	0	0.0	0	0.0	0.093	0.042	○	○	
自排局	西新	364	8,741	0.019	0	0.0	0	0.0	0.089	0.041	○	○	
	石丸	363	8,733	0.018	0	0.0	0	0.0	0.086	0.039	○	○	
	今宿	361	8,708	0.020	0	0.0	0	0.0	0.119	0.047	○	○	

注：年間の1時間値の日平均値の2%除外値が0.10mg/m<sup>3</sup>以下であり、かつ日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>を超える日が2日以上連続しない場合は○、非達成の場合は×を記載している（長期的評価）。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

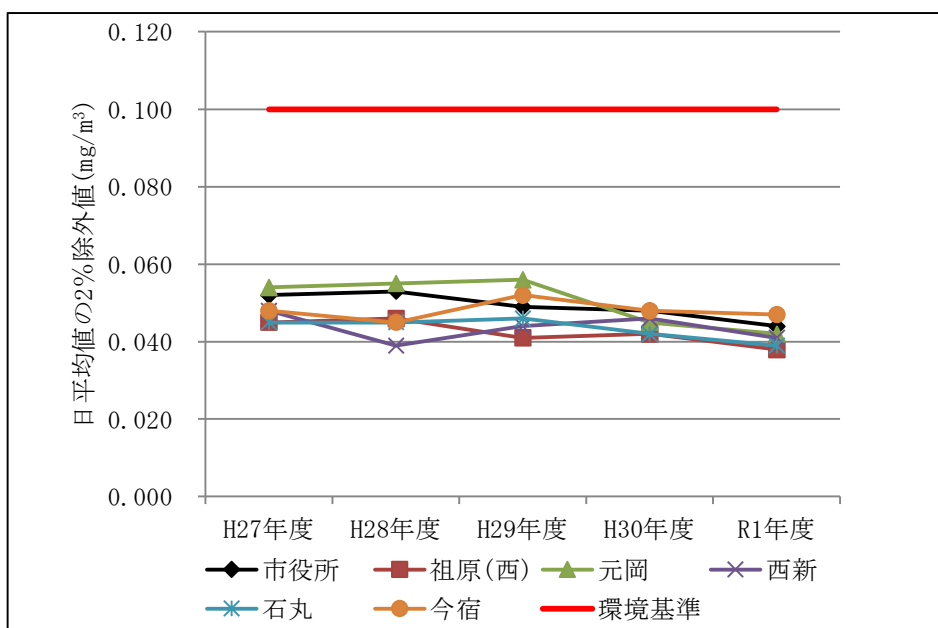


図 3.1.1-7 浮遊粒子状物質の経年変化

### ⑤ 微小粒子状物質

令和元年度における微小粒子状物質（PM2.5）の測定結果は、表 3.1.1-8 に示すとおりであり、一般局、自排局ともに環境基準を達成していた。また、年平均値の経年変化は、図 3.1.1-8 に示すとおり減少傾向にある。

表 3.1.1-8 微小粒子状物質の測定結果

区分	測定局	有効測定日数	年平均値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	日平均値の年間98%値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		達成状況 <sup>注</sup> ○・×	環境基準
					日	%		
一般局	市役所	355	12.2	29.1	1	0.3	○	年平均値 $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下、かつ、日平均値 $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下
	元岡	360	13.7	32.6	5	1.4	○	
自排局	西新	357	10.9	26.5	1	0.3	○	
	石丸	360	12.5	28.6	3	0.8	○	

注：年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、日平均値の98%値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下である場合は○、非達成の場合は×を記載している。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

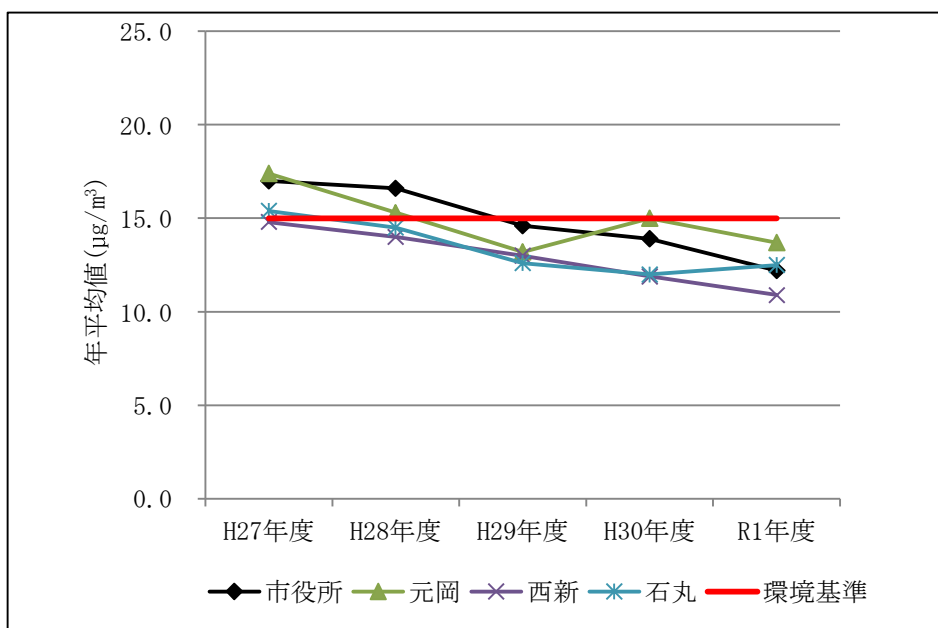


図 3.1.1-8 微小粒子状物質の経年変化

⑥ ダイオキシン類

令和元年度におけるダイオキシン類の測定結果は、表 3.1.1-9 に示すとおりであり、3測定局ともに環境基準を達成していた。また、経年変化は、図 3.1.1-9 に示すとおり横ばいにある。

表 3.1.1-9 ダイオキシン類の測定結果

単位：pg-TEQ/m<sup>3</sup>

測定局	年平均値	環境基準
市役所	0.011	0.6
西新	0.011	
元岡	0.0094	

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版  
福岡市環境局

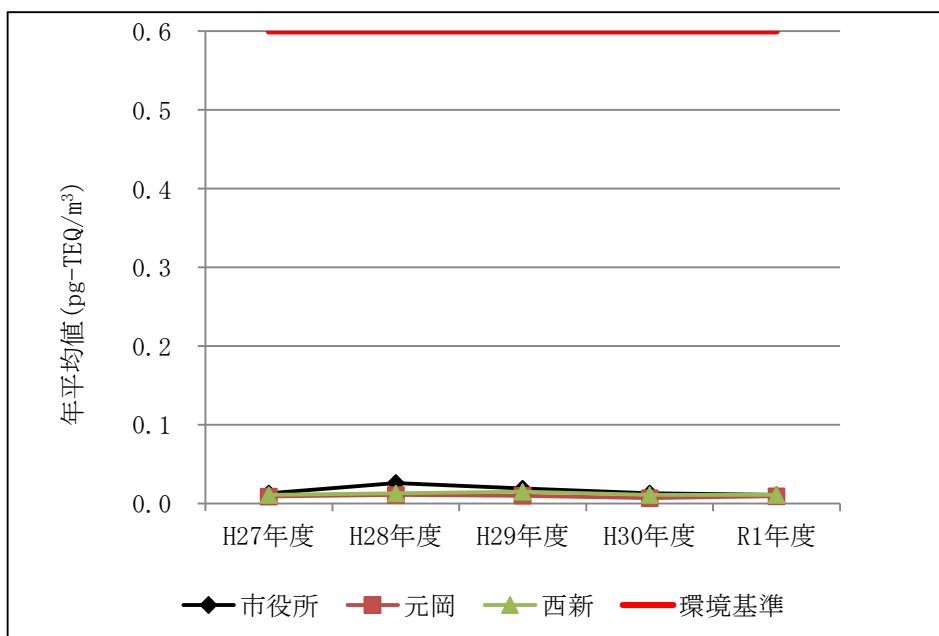


図 3.1.1-9 ダイオキシン類の経年変化

⑦ 水銀

令和元年度における水銀の測定結果は、表 3.1.1-10 に示すとおりであり、西新測定局において指針値を満足していた。また、経年変化は、図 3.1.1-10 に示すとおり横ばいにある。

表 3.1.1-10 水銀の測定結果

単位：ng/m<sup>3</sup>

測定局	最大値	最小値	年平均値	指針値
西新	2.0	0.64	1.4	40

指針値：今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第7次答申：平成15年7月31日）において示された指針値。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

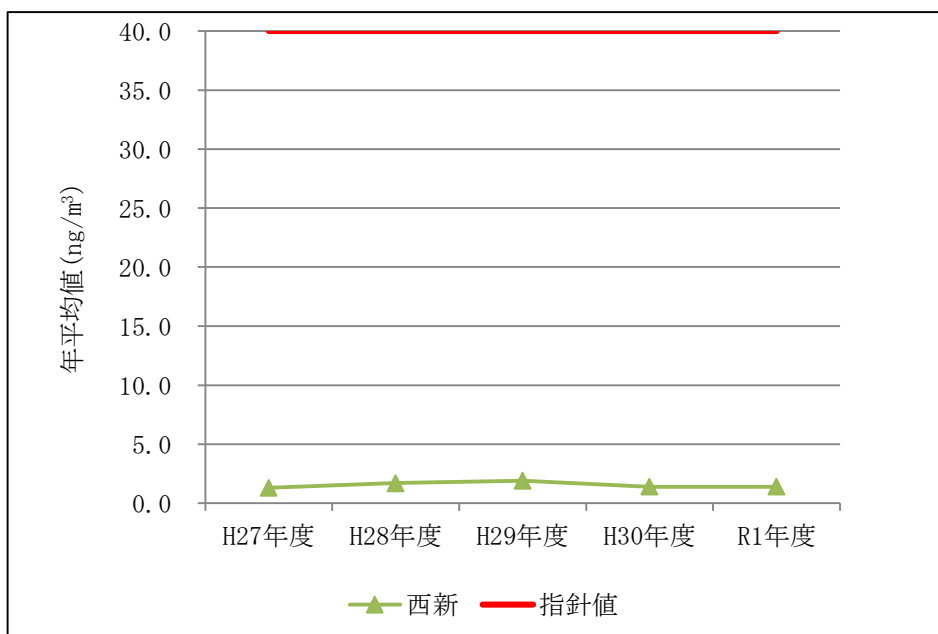


図 3.1.1-10 水銀の経年変化

### 3) 騒音

#### (1) 自動車騒音

事業実施想定区域周辺における平成 27 年度から令和元年度(一部で平成 26 年度から令和元年度)に実施された自動車騒音の測定結果は、表 3.1.1-11 に示すとおりである(測定地点は図 3.1.1-11 参照)。

これより、一般国道 202 号(西区今宿青木 1020-1)においては、経年的に環境基準を超過しており、一般国道 202 号(西区拾六町 5 丁目)においても環境基準を超過していた。その他、都地姪浜線の 2 地点では環境基準以下であった。

表 3.1.1-11 自動車騒音の測定結果

単位：dB

No.	測定地点概要				測定結果		環境基準		要請限度(参考)		測定年度
	路線名	評価区間番号	測定地点住所	定点	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	
1	一般国道202号	10390-4	西区今宿青木1020-1	●	73	68	70	65	75	70	H27
					72	68					H28
					74	69					H29
					73	68					H30
					73	68					R1
2	一般国道202号	10380-3	西区拾六町5丁目		71	67					H29
3	都地姪浜線	60360-3	西区石丸2丁目38		66	60					H26
					68	61					R1
4	都地姪浜線	60360-4	西区内浜2丁目17		64	60					H26
					66	59					R1

注：■ 要請限度以下であるが環境基準を超過していることを示す。

出典：「福岡市自動車騒音常時監視結果(自動車騒音・道路交通振動測定結果)」各年度版 福岡市環境局

### 4) 振動

#### (1) 道路交通振動

事業実施想定区域周辺における平成 27 年度から令和元年度に実施された道路交通振動の測定結果は、表 3.1.1-12 に示すとおりである(測定地点は図 3.1.1-11 参照)。

これより、一般国道 202 号(西区今宿青木 1020-1)においては経年的に要請限度以下であった。

表 3.1.1-12 道路交通振動の測定結果

単位：dB

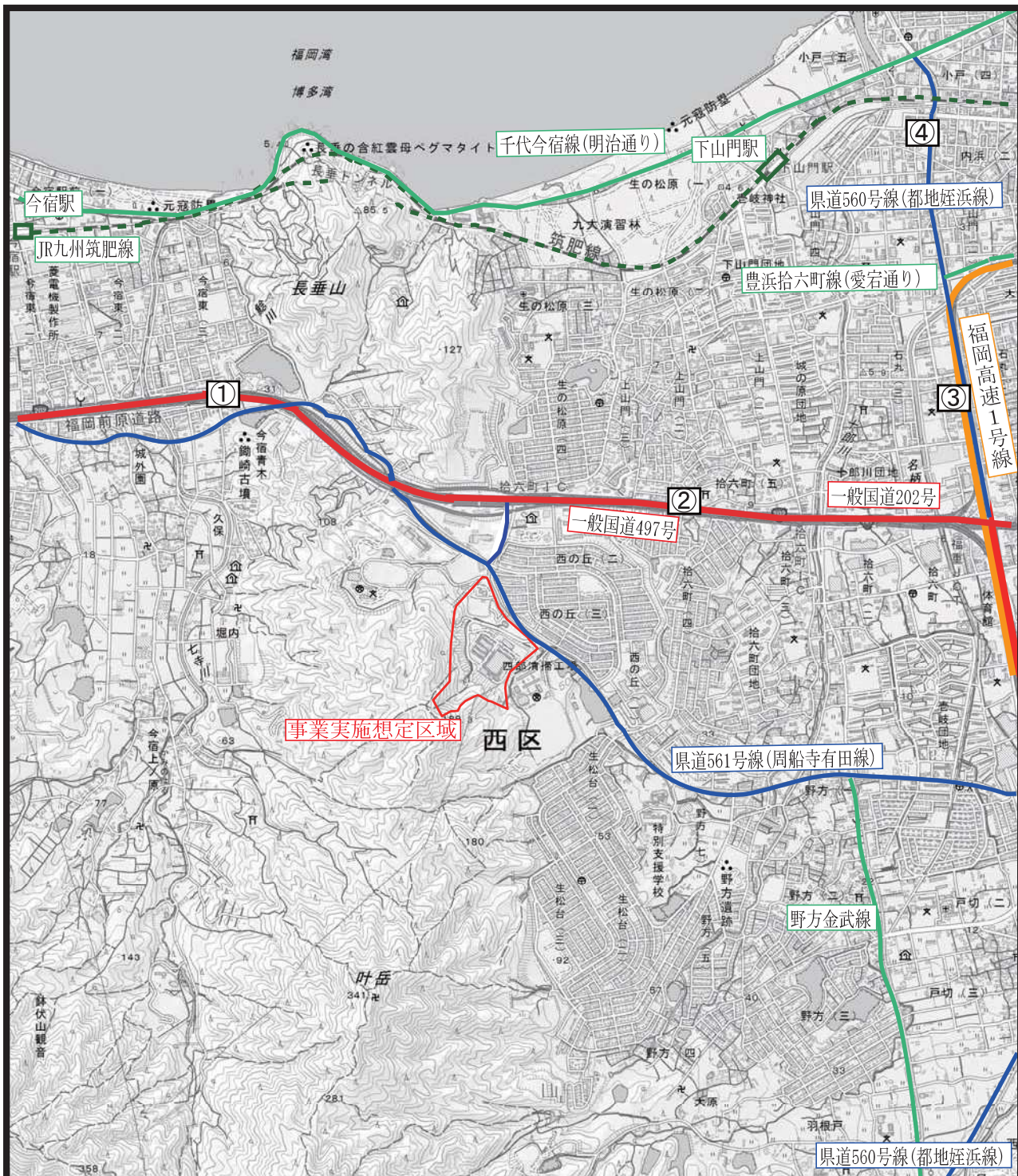
No.	測定地点概要				測定結果(L10)		要請限度(参考)		測定年度
	路線名	評価区間番号	測定地点住所	定点	昼間	夜間	昼間	夜間	
1	一般国道202号	10390-4	西区今宿青木1020-1	●	43	36	65	60	H27
					43	37			H28
					43	38			H29
					43	38			H30
					43	37			R1

出典：「福岡市自動車騒音常時監視結果(自動車騒音・道路交通振動測定結果)」各年度版 福岡市環境局

### 5) 悪臭

事業実施想定区域に隣接して、悪臭の発生源となる施設は見当たらない。

なお、平成 30 年度において、福岡市における悪臭に対する苦情受付は 69 件であり、西区では 9 件であった(p.3-93 参照)。



凡例

: 事業実施想定区域

: 都市高速

: 国道

: 県道

: 市道

: 鉄道

①～④ : 騒音調査地点  
(表3.1.1-11の番号を示す。)

① : 振動調査地点  
(表3.1.1-12の番号を示す。)



S = 1 : 25,000



「電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成」

図3.1.1-11 事業実施想定区域周辺における自動車騒音・道路交通振動の測定結果

## 1.2 水環境の状況

### 1) 水象

事業実施想定区域周辺における主な河川の状況は表 3.1.2-1 及び図 3.1.2-1 に示すとおりである。

二級河川として十郎川、七寺川があり、これらはともに博多湾に注ぐ。なお、事業実施想定区域の東側は十郎川流域の準用河川野方川、西側は七寺川流域の準用河川鯉川水系にあたる。

表 3.1.2-1 主な河川の状況

河川名	総延長(m)	流域面積(km <sup>2</sup> )	備考
十郎川	3,971	6.6	都市基盤河川改修事業(S47～S58)完了
七寺川	2,630	8.3	都市基盤河川改修事業(S49～H6)完了

出典：「福岡市地域防災計画(資料編)」令和2年6月 福岡市防災会議

### 2) 水質

#### (1) 河川の水質

##### ① 生活環境項目等

事業実施想定区域周辺における河川について、十郎川では壱岐橋に、七寺川では上鯉川橋で水質測定地点が設定されており、ともに環境基準の類型はC、水生生物保全に係る補助地点となっている(図 3.1.2-1 参照)。

これら2地点におけるBOD(75%値)についての経年変化は、表 3.1.2-2 に示すとおりであり、概ね横ばいであり、過去5年間でいずれも環境基準を達成している。

表 3.1.2-2 水質経年変化(BOD:75%値)

単位：mg/L


河川名	調査地点	類型	環境基準	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
十郎川	壱岐橋	C	5以下	1.1	0.7	0.9	1.0	0.9
七寺川	上鯉川橋	C	5以下	0.9	0.6	0.9	0.9	0.7


出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局





凡例

 : 事業実施想定区域

 : 主な河川

 : 水質調査地点



S = 1:25,000



「電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成」

図3.1.2-1 事業実施想定区域周辺における  
主な河川の状況

出典：「福岡市地域防災計画（資料編）」

また、令和元年度における生活環境項目等の測定結果は、表3.1.2-3に示すとおりであり、十郎川（壱岐橋）では、ふっ素、ほう素が環境基準を上回っていたが、これらは海水の影響によるものと考えられている。七寺川（上鯉川橋）では、すべての項目で環境基準（指針値）を満足していた。

なお、令和元年度に実施されていない健康項目については、その項目の最新のデータである平成29年度の測定結果を示した。

表 3.1.2-3(1/2) 水質測定結果（十郎川：壱岐橋）

測定項目		平均	最小値	最大値	m/n	x/y	75%値	k/n	環境基準
現場 観測 項目	気温(°C)	21.4	9.5	33.8	-/12	-/12	26.0	12/12	—
	水温(°C)	22.3	11.3	33.6	-/12	-/12	28.0	12/12	—
	透視度(cm)	91	57	100	-/12	-/12	100	12/12	—
生活 環境 項目	pH(—)	8.0	7.5	8.5	0/12	0/12	8.2	12/12	6.5~8.5
	DO(mg/L)	10	9.2	12	0/12	0/12	10	12/12	5以上
	BOD(mg/L)	0.8	<0.5	1.6	0/12	0/12	0.9	10/12	5以下
	COD(mg/L)	3.4	2.2	5.3	-/12	-/12	3.9	12/12	—
	SS(mg/L)	4	<1	13	0/12	0/12	5	11/12	50以下
	大腸菌群数(MPN/100mL)	6100	110	33000	-/12	-/12	2800	12/12	—
	全窒素(mg/L)	0.45	0.27	0.68	-/12	-/12	0.55	12/12	—
	全燐(mg/L)	0.064	0.028	0.11	-/12	-/12	0.080	12/12	—
	全亜鉛(水生生物保全)(mg/L)	0.008	0.004	0.016	-/4	-/4	0.006	4/4	—
	ノニルフェノール(水生生物保全)(mg/L)	<0.00006	<0.00006	<0.00006	-/4	-/4	<0.00006	0/4	—
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(水生生物保全)(mg/L)	0.0008	<0.0006	0.0010	-/4	-/4	0.0009	2/4	—
	健康項目  H29年度 測定 結果	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0/1	0/1	<0.0003	0/1
全シアン		<0.1	<0.1	<0.1	0/1	0/1	<0.1	0/1	検出されないこと
鉛		<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下
六価クロム		<0.005	<0.005	<0.005	0/1	0/1	<0.005	0/1	0.05以下
砒素		<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下
総水銀		<0.0001	<0.0001	<0.0001	0/1	0/1	<0.0001	0/1	0.0005以下
アルキル水銀		<0.0005	<0.0005	<0.0005	0/1	0/1	<0.0005	0/1	検出されないこと
PCB		<0.0005	<0.0005	<0.0005	0/1	0/1	<0.0005	0/1	検出されないこと
ジクロロメタン		<0.002	<0.002	<0.002	0/1	0/1	<0.002	0/1	0.02以下
四塩化炭素		<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/1	0/1	<0.0002	0/1	0.002以下
1,2-ジクロロエタン		<0.0004	<0.0004	<0.0004	0/1	0/1	<0.0004	0/1	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン		<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.1以下
1,2-ジクロロエチレン		<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン		<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	1以下
1,1,2-トリクロロエタン		<0.0006	<0.0006	<0.0006	0/1	0/1	<0.0006	0/1	0.006以下
トリクロロエチレン		<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下
テトラクロロエチレン		<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン		<0.0001	<0.0001	<0.0001	0/1	0/1	<0.0001	0/1	0.002以下
チウラム		<0.0006	<0.0006	<0.0006	0/1	0/1	<0.0006	0/1	0.006以下
シマジン		<0.0003	<0.0003	<0.0003	0/1	0/1	<0.0003	0/1	0.003以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	0/1	0/1	<0.002	0/1	0.02以下	
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下	
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	0/1	0/1	<0.002	0/1	0.01以下	
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	0/1	0/1	<0.005	0/1	0.05以下	
健康項目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素(mg/L)	0.12	0.12	0.12	0/1	0/1	0.12	1/1	10以下
	ふっ素(mg/L)	0.82	0.82	0.82	1/1	1/1	0.82	1/1	0.8以下
	ほう素(mg/L)	2.8	2.8	2.8	1/1	1/1	2.8	1/1	1以下
測定項目									
要監視 項目	モリブデン(mg/L)	0.007	0.007	0.007	0/1	0/1	0.007	1/1	0.07以下
	全マンガン(mg/L)	0.044	0.044	0.044	0/1	0/1	0.044	1/1	0.2以下
	ウラン(mg/L)	0.0017	0.0017	0.0017	0/1	0/1	0.0017	1/1	0.002以下
その 他 の 項 目	塩化物イオン(mg/L)	8700	2400	13000	-/12	-/12	11000	12/12	—
	硝酸性窒素(mg/L)	0.12	0.12	0.12	-/1	-/1	0.12	1/1	—
	亜硝酸性窒素(mg/L)	0.006	0.006	0.006	-/1	-/1	0.006	1/1	—
	電気伝導度(mS/m)	2400	770	3800	-/12	-/12	3000	12/12	—
	MBAS(mg/L)	0.17	0.10	0.24	-/4	-/4	0.21	4/4	—
大腸菌数(MPN/100mL)	71	4	250	-/12	-/12	100	12/12	—	

注：環境基準超過

m/n nは測定値の数。mは環境基準値または指針値超過の数。x/y xは環境基準に適合しない(または指針値を超過した)日数。yは総測定日数。

k/n nは測定値の数。kは測定データ中で値が検出されたもの(報告下限値以上)の数。

出典：「福岡市水質測定結果報告書」平成29年度(2017年度)版、令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

表 3.1.2-3(2/2) 水質測定結果 (七寺川：上鯉川橋)

測定項目		平均	最小値	最大値	m/n	x/y	75%値	k/n	環境基準
現場 観測 項目	気温(℃)	21.9	9.5	33.4	-/12	-/12	26.5	12/12	—
	水温(℃)	20.8	11.9	33.1	-/12	-/12	24.7	12/12	—
	透視度(cm)	93	69	100	-/12	-/12	100	12/12	—
生活 環境 項目	pH(—)	7.4	6.8	7.8	0/12	0/12	7.6	12/12	6.5~8.5
	DO(mg/L)	9.4	5.9	12	0/12	0/12	11	12/12	5以上
	BOD(mg/L)	0.6	<0.5	0.8	0/12	0/12	0.7	10/12	5以下
	COD(mg/L)	3.3	1.7	6.8	-/12	-/12	3.6	12/12	—
	SS(mg/L)	4	<1	12	0/12	0/12	6	11/12	50以下
	大腸菌群数(MPN/100mL)	32000	700	230000	-/12	-/12	22000	12/12	—
	全窒素(mg/L)	0.75	0.55	0.96	-/12	-/12	0.85	12/12	—
	全燐(mg/L)	0.057	0.025	0.12	-/12	-/12	0.062	12/12	—
	全亜鉛(水生生物保全)(mg/L)	0.006	0.002	0.013	-/4	-/4	0.005	4/4	—
	ノニルフェノール(水生生物保全)(mg/L)	<0.00006	<0.00006	<0.00006	-/4	-/4	<0.00006	0/4	—
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(水生生物保全)(mg/L)	0.0009	0.0006	0.0017	-/4	-/4	0.0008	4/4	—	
健康 項目	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0/1	0/1	<0.0003	0/1	0.003以下
	全シアン	<0.1	<0.1	<0.1	0/1	0/1	<0.1	0/1	検出されないこと
	鉛	<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	0/1	0/1	<0.005	0/1	0.05以下
	砒素	<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下
	総水銀	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0/1	0/1	<0.0001	0/1	0.0005以下
	アルキル水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0/1	0/1	<0.0005	0/1	検出されないこと
	PCB	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0/1	0/1	<0.0005	0/1	検出されないこと
	ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	0/1	0/1	<0.002	0/1	0.02以下
	四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0/1	0/1	<0.0002	0/1	0.002以下
	1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0/1	0/1	<0.0004	0/1	0.004以下
	1,1-ジクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.1以下
	1,2-ジクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.04以下
	1,1,1-トリクロロエタン	<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	1以下
	1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0/1	0/1	<0.0006	0/1	0.006以下
	トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下
	テトラクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下
	1,3-ジクロロプロペン	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0/1	0/1	<0.0001	0/1	0.002以下
	チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0/1	0/1	<0.0006	0/1	0.006以下
	シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0/1	0/1	<0.0003	0/1	0.003以下
	チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	0/1	0/1	<0.002	0/1	0.02以下
	ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	0/1	0/1	<0.001	0/1	0.01以下
	セレン	<0.002	<0.002	<0.002	0/1	0/1	<0.002	0/1	0.01以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	0/1	0/1	<0.005	0/1	0.05以下	
健康 項目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素(mg/L)	0.6	0.6	0.6	0/1	0/1	0.06	1/1	10以下
	ふっ素(mg/L)	0.09	0.09	0.09	0/1	0/1	0.09	1/1	0.8以下
	ほう素(mg/L)	0.02	0.02	0.02	0/1	0/1	0.02	1/1	1以下
測定項目		平均	最小値	最大値	m/n	x/y	75%値	k/n	指針値
要 監 視 項 目	全マンガン(mg/L)	0.016	0.016	0.016	0/1	0/1	0.016	1/1	0.2以下
	塩化物イオン(mg/L)	400	13	3000	-/12	-/12	170	12/12	—
そ の 他 の 項 目	硝酸性窒素(mg/L)	0.60	0.60	0.60	-/1	-/1	0.60	1/1	—
	亜硝酸性窒素(mg/L)	0.002	0.002	0.002	-/1	-/1	0.002	1/1	—
	電気伝導度(mS/m)	130	13	840	-/12	-/12	72	12/12	—
	MBAS(mg/L)	0.05	<0.05	0.06	-/4	-/4	<0.05	1/4	—
	大腸菌数(MPN/100mL)	140	13	400	-/12	-/12	200	12/12	—

注： m/n nは測定値の数。mは環境基準値または指針値超過の数。x/y xは環境基準に適合しない(または指針値を超過した)日数。yは総測定日数。

k/n nは測定値の数。kは測定データ中で値が検出されたもの(報告下限値以上)の数。

出典：「福岡市水質測定結果報告書」平成29年度(2017年度)版、令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

## ② ダイオキシン類

令和元年度におけるダイオキシン類の測定結果は、表 3.1.2-4 に示すとおりであり、十郎川（老岐橋）、七寺川（上鯉川橋）ともに環境基準を満足していた。

表 3.1.2-4 ダイオキシン類測定結果（河川水質）

区分	十郎川 老岐橋	七寺川 上鯉川橋	環境基準
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.10	0.056	1以下

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

## 3) 地下水の水位及び水質

### (1) 地下水の水質

事業実施想定区域周辺では、令和元年度に表 3.1.2-5 に示す継続監視調査、表 3.1.2-6 に示す概況調査が実施されている。

これより、継続監視調査において今宿駅前でトリクロロエチレンが環境基準を上回っていた。また、概況調査では、すべての項目で環境基準を下回っていた。

表 3.1.2-5 継続監視調査結果

区分		No.	17	18	24	25
		環境基準 mg/L以下	今宿駅前	今宿東	下山門①	下山門②
水温	(℃)	—	19.6	19.7	19.5	18.7
pH	—	—	7.4	6.6	6.9	6.8
電気伝導度	(mS/m)	—	90	30	19	20
クロロエチレン	mg/L	0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
1,1-ジクロロエチレン		0.1	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001
1,2-ジクロロエチレン		0.04	0.0067	0.0039	0.0002	0.0002
1,1,1-トリクロロエチレン		1	<0.0005	<0.0005	—	—
トリクロロエチレン		0.01	0.012	0.002	<0.001	<0.001
テトラクロロエチレン		0.01	<0.0005	<0.0005	0.0063	0.0048

注：   環境基準超過

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

表 3.1.2-6 概況調査結果

区分		No.		13	
		環境基準 mg/L以下	定量下限	西区 野方	
環境 基準 項目	カドミウム	mg/L	0.003	0.0003	<0.0003
	全シアン		検出されないこと	0.01	検出されず
	鉛		0.01	0.001	<0.001
	六価クロム		0.05	0.005	<0.005
	砒素		0.01	0.001	<0.001
	総水銀		0.0005	0.0005	<0.0005
	アルキル水銀		検出されないこと	0.0005	検出されず
	P C B		検出されないこと	0.0005	検出されず
	ジクロロメタン		0.02	0.002	<0.002
	四塩化炭素		0.002	0.0002	<0.0002
	クロロエチレン		0.002	0.0002	<0.0002
	1,2-ジクロロエタン		0.004	0.0002	<0.0001
	1,1-ジクロロエチレン		0.1	0.0001	<0.0001
	シス-1,2-ジクロロエチレン		—	0.0001	<0.0001
	トランス-1,2-ジクロロエチレン		—	0.0001	<0.0001
	1,2-ジクロロエチレン		0.04	0.0002	<0.0002
	1,1,1-トリクロロエタン		1	0.0005	<0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン		0.006	0.0001	<0.0001
	トリクロロエチレン		0.01	0.001	<0.001
	テトラクロロエチレン		0.01	0.0005	<0.0005
	1,3-ジクロロプロペン		0.002	0.0002	<0.0002
	チウラム		0.006	0.0006	<0.0006
	シマジン		0.003	0.0001	<0.0001
	チオベンカルブ		0.02	0.0001	<0.0001
	ベンゼン		0.01	0.001	<0.001
	セレン		0.01	0.001	<0.001
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素		10	0.024	3.3
ふっ素	0.8	0.1	<0.1		
ほう素	1	0.02	<0.02		
1,4-ジオキサン	0.05	0.005	<0.005		
その他	水温	(°C)	—	—	19.2
	pH	—	—	—	5.9
	電気伝導度	(mS/m)	—	—	13

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

#### 4) 水底の底質

##### (1) 河川の底質

令和元年度における底質の測定結果は、表 3.1.2-7 に示すとおりである。

底質の暫定除去基準が定められている総水銀、PCBは、十郎川（壱岐橋）、七寺川（上鯰川橋）ともに基準を満足していた。

表 3.1.2-7 底質測定結果

調査項目	十郎川 壱岐橋	七寺川 上鯰川橋	底質の暫定 除去基準
pH	7.9	7.5	—
COD (mg/g)	3.1	2.5	—
乾燥減量 (%)	18	19	—
強熱減量 (%)	1.5	1.2	—
硫化物 (mg/kg)	81	6	—
有機炭素 (mg/g)	3.4	1.5	—
全窒素 (mg/kg)	280	240	—
全りん (mg/kg)	130	110	—
カドミウム (mg/kg)	<0.05	<0.05	—
シアン (mg/kg)	<1	<1	—
有機りん (mg/kg)	<1	<1	—
鉛 (mg/kg)	3.3	3.3	—
総クロム (mg/kg)	8	5	—
六価クロム (mg/kg)	<2	<2	—
ひ素 (mg/kg)	1.7	1.1	—
総水銀 (mg/kg)	0.01	<0.01	25
アルキル水銀 (mg/kg)	<0.01	<0.01	—
PCB (mg/kg)	<0.01	<0.01	10
ノニルフェノール (μg/kg)	14	<10	—
4-t-オクチルフェノール (μg/kg)	<1.0	<1.0	—

注：pH、乾燥減量、強熱減量以外は乾燥固形物当りの濃度

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

##### (2) ダイオキシン類

令和元年度における底質の測定結果は、表 3.1.2-8 に示すとおりであり、十郎川（壱岐橋）、七寺川（上鯰川橋）ともに環境基準を満足していた。

表 3.1.2-8 ダイオキシン類測定結果（河川底質）

区分	十郎川 壱岐橋	七寺川 上鯰川橋	環境基準
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	0.42	0.27	150

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

### 1.3 土壌及び地盤の状況

#### 1) 土壌

##### (1) 土壌の状況

「土壌分類基本調査」による周辺の土壌図を図 3.1.3-1 に示す。

事業実施想定区域及びその周辺は、乾性褐色森林土、褐色森林土（黄褐色系）及び市街地その他が混在して分布する地域となっている。

##### (2) 土壌汚染の状況

###### ① ダイオキシン類

西区内では、令和元年度に土壌中ダイオキシン類調査が実施されており、表 3.1.3-1 に示すとおり環境基準を下回る結果となっている。

表 3.1.3-1 土壌のダイオキシン類結果

区分	地点	測定結果	環境基準
ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	西区	0.0069	1,000

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版 福岡市環境局

###### ② 土壌汚染対策法に基づく指定

西区内では、3箇所において土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域に指定されたが、現在は2箇所が解除され、1箇所のみ指定されている（表 3.1.3-2 参照）。

表 3.1.3-2 土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域

整理番号	指定・解除年月日	指定番号	区域の種類	要措置区域等の所在地	区域の面積	基準に適合していなかった特定有害物質の種類
整-17-1	平成17年7月21日 平成18年1月26日 (全部解除)	形-2号	形質変更時 要届出区域	西区下山門4- 830, 831, 832, 833-2, 838- 1の各一部並びに838-3	993.79m <sup>2</sup> →0m <sup>2</sup>	シス-1, 2-ジクロロエチレン テトラクロロエチレン トリクロロエチレン
整-24-2	平成24年9月24日 平成25年4月8日 (全部解除)	形-7号	形質変更時 要届出区域	西区今宿東1- 664, 665, 666及び676の各 一部	1013m <sup>2</sup> →0m <sup>2</sup>	ふっ素及びその化合物 鉛及びその化合物
整-2-3	令和3年2月15日	形-31号	形質変更時 要届出区域	西区今宿東1- 685の一部	200m <sup>2</sup>	鉛及びその化合物

出典：「要措置区域及び形質変更時要届出区域（以下要措置区域等）の指定状況」福岡市ホームページ

#### 2) 地盤

事業実施想定区域周辺において地盤沈下発生への報告はない。また、福岡市内に地下水の揚水が規制される地域はない。



凡例  
 : 事業実施想定区域  
 : 市区境界

山地及び丘陵地の土壌	細粒赤色土壌	細粒灰色低地土壌 (灰褐色系)
乾性褐色森林土 (赤色系)	唐原統 (Tbr)	金田統 (Kan)
宗像1統 (Muk 1)	細粒黄色土壌	多々良統 (Ttr)
乾性褐色森林土	鶴木山統 (Trg)	中粗粒灰色低地土壌 (灰褐色系)
金山1統 (Kny)	中粗粒黄色土壌	安来統 (Ysk)
筑前1統 (Chz 1)	大代統 (Osh)	細粒強グライ土壌
筑前2統 (Chz 2)	細粒黄色土壌 (斑紋あり)	西山統 (Nsh)
褐色森林土 (黄褐色系)	北多久統 (Kit)	中粗粒強グライ土壌
脊振2統 (Seh 2)	細粒灰色低地土壌 (灰色系)	芝井統 (Shb)
糸島1統 (Ito 1)	鴨島統 (Kmj)	細粒グライ土壌
筑紫1統 (Chs 1)	中粗粒灰色低地土壌 (灰色系)	千年統 (Cht)
直方1統 (Nog 1)	加茂統 (Km)	中粗粒グライ土壌
褐色森林土	豊中統 (Toy)	新山統 (Niy)
嘉徳統 (Kah)	礫質灰色低地土壌	八幡統 (Vwt)
台地及び低地の土壌	久世田統 (Kus)	造成低地土壌
砂丘未熟土壌	追子野木統 (Okk)	鉦害復旧田 (Kog)
玄海統 (Gen)	国領統 (Kok)	市街地その他
内灘統 (Ich)		



S = 1 : 50,000



図3. 1. 3-1  
 事業実施想定区域周辺における土壌図

出典：「土地分類調査図 (土じょう図 福岡)」 (昭和59年 福岡県)



## 1.4 地形・地質の状況

### 1) 地形の状況

事業実施想定区域及びその周辺における地形の状況は、図 3.1.4-1 に示すとおりである。

事業実施想定区域周辺の地形は、事業実施想定区域の南部から西部にかけては、高祖山や叶岳からなる山地や山麓地、砂礫台地が広がり、東部は、砂礫台地、扇状地や人工改変地などから構成されており、室見川が流れている。また、北部は三角州や海浜砂丘、砂浜といった低地や人工改変地などから構成され、その先には博多湾が広がっている。事業実施想定区域は小起伏山地または人工改変地（宅地砕石）となっている。

なお、事業実施想定区域内には、学術上または希少性の観点から重要な地形はない。

### 2) 地質の状況

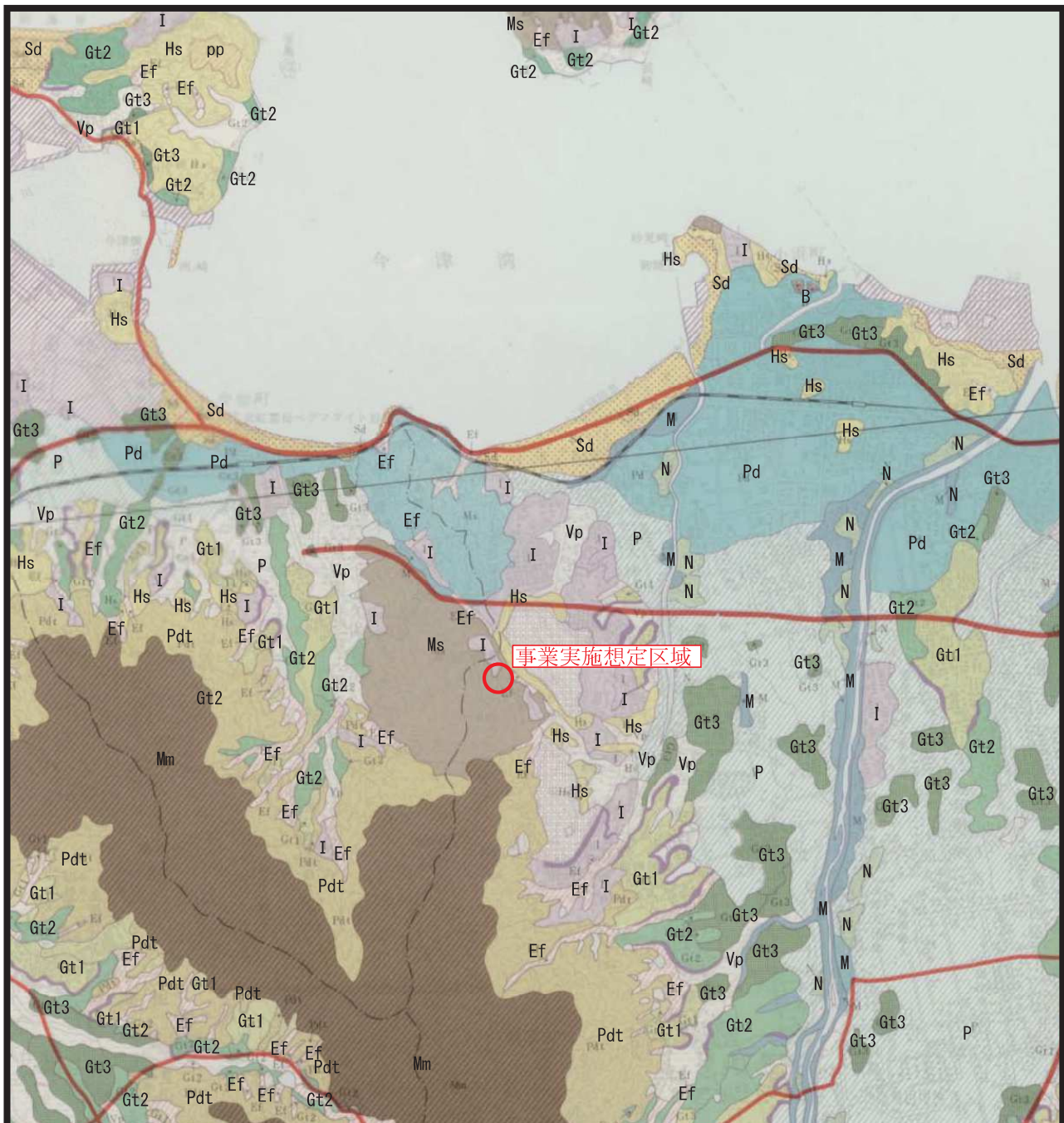
事業実施想定区域及びその周辺における地質の状況は、図 3.1.4-2 に示すとおりである。

事業実施想定区域周辺の地質は、事業実施想定区域の南部から西部にかけて位置する高祖山や叶岳といった山地を構成する深成岩類とその周辺に分布する未固結堆積物の砂・泥・礫などから構成されている。また、事業実施想定区域の北西約 2.2km の位置には、長垂の含紅雲母ペグマタイト岩脈が存在する。

事業実施想定区域は深成岩類（黒雲母花崗岩）となっており、白亜紀に形成されたものである。

なお、事業実施想定区域内には、学術上または希少性の観点から重要な地質はない。

一方、現有施設（西部資源化センター）建設時における地質調査により得られた掘削壁面地質想定展開図を図 3.1.4-3 に示す。また、地層構成について、現有施設（西部資源化センター）の建設以前は、沢地形であったと推定され、No. A3 での盛土厚は 10m 以上に及ぶ。盛土下位は沢地形に特有の崖錐性堆積物が薄く分布し、花崗岩は最も深くて標高+50.5m で出現する。



凡例

○ : 事業実施想定区域  
 - - - : 市区境界

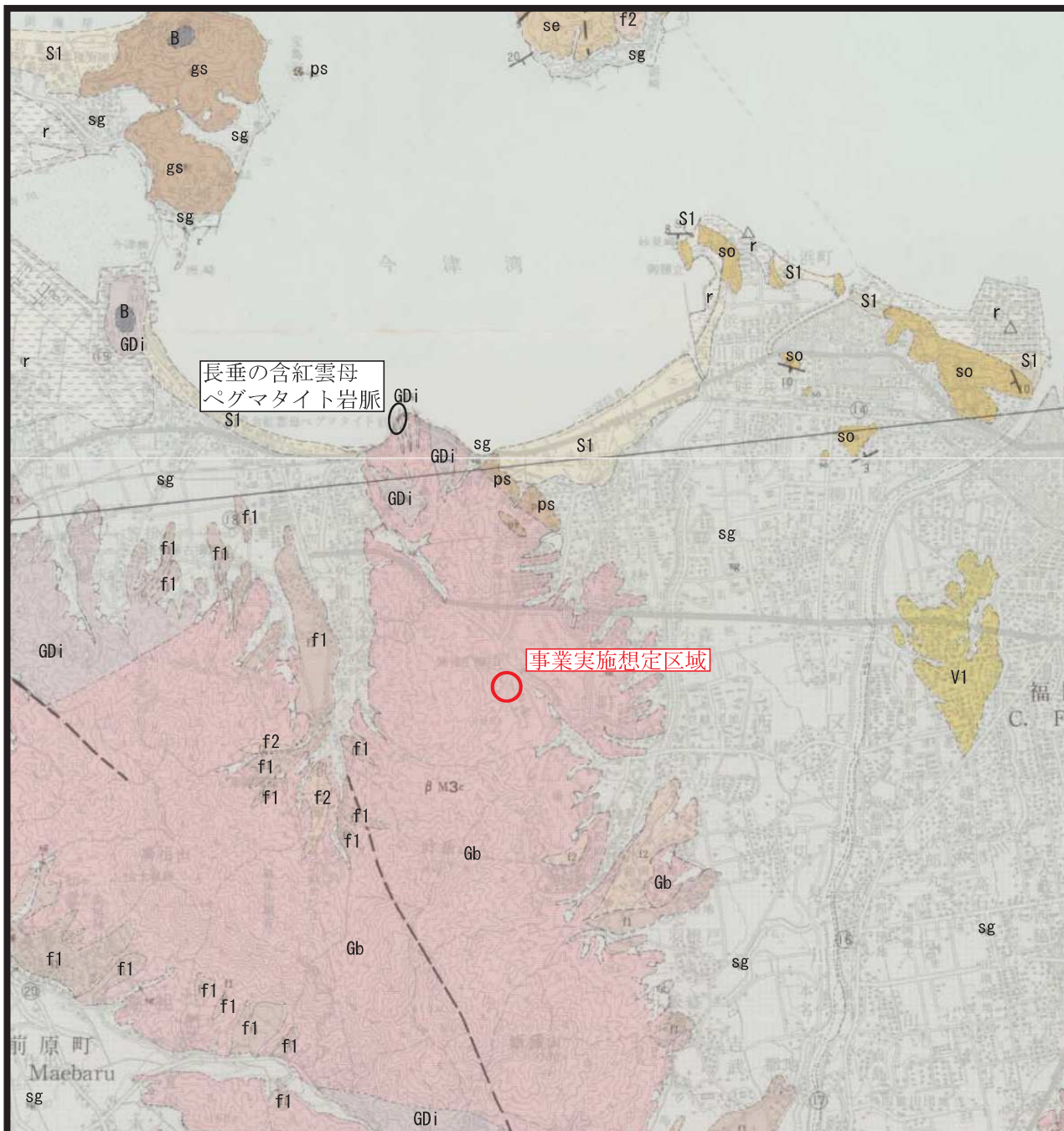
山地	中起伏山地(Mm) (起伏量200~400m)	低地	谷底平野(Vp)
	小起伏山地(Ms) (起伏量200m以下)		平野(扇状地)(P)
山麓地	山麓地(Pdt) (起伏量100m以下)		平野(三角州)(Pd)
丘陵地	丘陵地Ⅱ(Hs) (起伏量100m以下)	その他	自然堤防(N)
台地	砂礫台地Ⅰ(Gt1) (中位~高位段丘)		湿地、旧河道、河道(M)
	砂礫台地Ⅱ(Gt2) (低位段丘)		海浜砂丘、砂浜(Sd)
	砂礫台地Ⅲ(Gt3) (低位段丘)		人工改变地(宅地砕石)(Ⅰ)
低地	土石流堆積面(Ef)		人工改变地(ゴルフ場、緑地)(Ⅱ)
			埋立地
			崖面
			国道(主要地方道)

出典: 「土地分類調査図(地形分類図 福岡)」(昭和59年 福岡県)

N

S = 1 : 50,000

図3. 1. 4-1  
 事業実施想定区域周辺における地形分類図



凡例

- : 事業実施想定区域
- : 市区境界

未固結堆積物

- 人工埋積地 (埋立地・主要ボタ山) (沖積世)
- 砂・泥・礫 (沖積層) (沖積世)
- 砂 (海浜砂層・砂丘砂層) (沖積世)
- 砂礫・砕屑物 (新期扇状地及山麓堆積物) (沖積世)
- 砕屑物・砂礫 (古期扇状地及山麓堆積物) (洪積世)
- 火山灰 (含粘土、中段丘面構成層2) (洪積世)

火山性岩石

- 玄武岩及同質凝灰角礫岩・集塊岩 (鮮新世)

固結堆積物

- 主として砂岩 (含礫岩・シルト岩・礫浜層群) (漸新世)
- 砂岩・シルト岩 (含礫岩・凝灰質シルト岩・石炭・福岡・熊鹿・早良・志免層群) (始新世～漸新世)

深成岩類 (白亜紀)

- 黒雲母花崗岩 (早良型・佐賀型) (両雲母花崗岩を含む)
- 含輝石・角閃石・黒雲母花崗閃緑岩 (高島型)

変成岩類 (三郡変成岩類)

- 砂質片岩
- 緑色片岩

- 主要ボタ山
- 地層境界
- 走向・傾斜
- 断層



S = 1 : 50,000

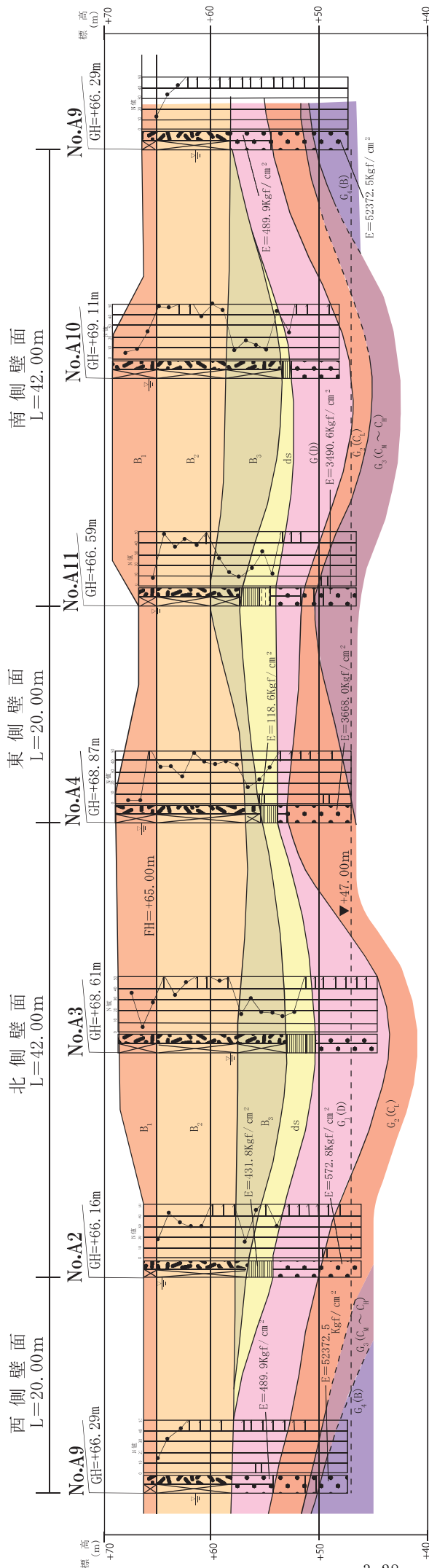


図3.1.4-2

事業実施想定区域周辺における表層地質図

出典：「土地分類調査図 (表層地質図 福岡)」 (昭和59年 福岡県)

掘削壁面地質想定展開図



凡例

地質時代	地層名	記号	記事
新 世 代	第1盛土層	B <sub>1</sub>	マサの盛土 計画地盤高FH=+65.0m以上で区分
	第2盛土層	B <sub>2</sub>	マサの盛土で密な締まりの層 小礫混じりシルト質砂土
	第3盛土層	B <sub>3</sub>	マサの盛土で緩い締まりの層 所々塵芥を混入する砂質土
洪 積 世	砂 質 土 層	d s	崖錐性堆積物 シルト混じり砂、砂礫よりなる
	強風化花崗岩	G <sub>1</sub>	D級岩盤 マサ(砂質土)状
白 堊 紀	中風化花崗岩	G <sub>2</sub>	C <sub>1</sub> 級岩盤 岩構造を残すが風化進行し脆弱 所々節理面に粘土薄層を挟む
	弱風化花崗岩	G <sub>3</sub>	C <sub>M</sub> ~C <sub>H</sub> 級岩盤 硬質岩芯を残し短柱状コアとなる 所々節理面に年度薄層を挟む
	未風化花崗岩	G <sub>4</sub>	B級岩盤 新鮮な硬質棒状コアとなる

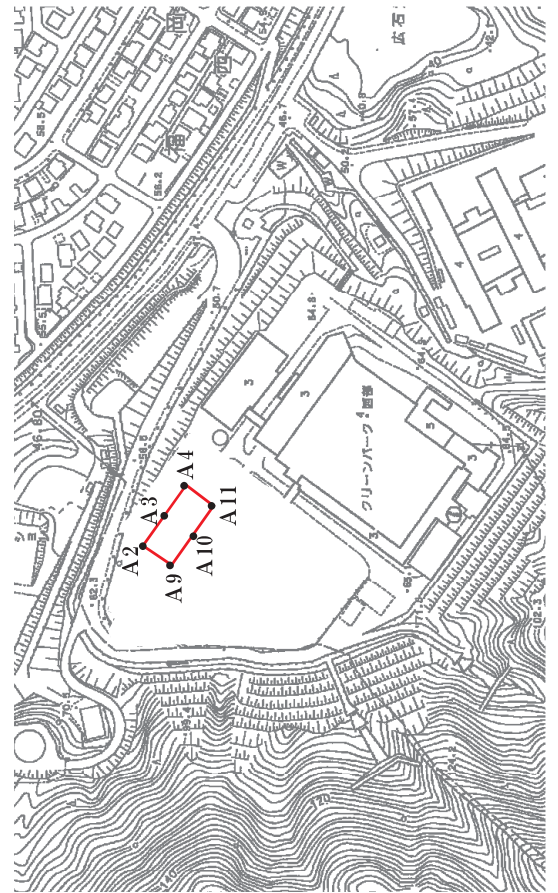


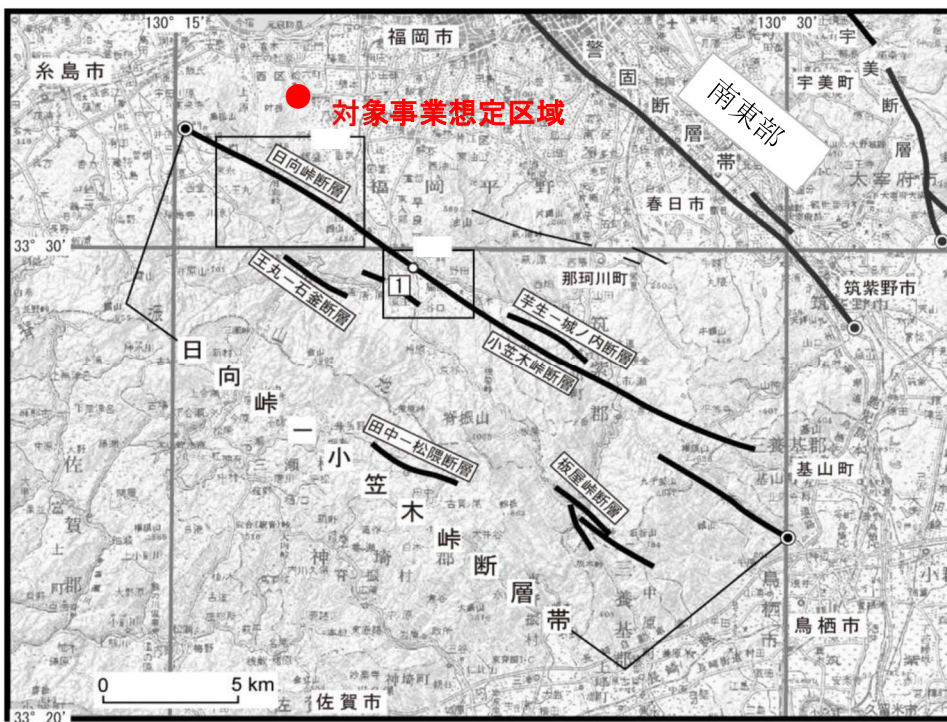
図3.1.4-3 掘削壁面地質想定展開図

### 3) 活断層等の状況

事業実施想定区域周辺に存在する活断層として、日向峠－小笠木峠断層帯及び警固断層帯があげられる。各活断層の概要は表 3.1.4-1 に、その位置は図 3.1.4-4 に示すとおりであり、ともに将来の地震発生の可能性において不明な点がある。

表 3.1.4-1 活断層の概要

断層帯名	概要	将来の地震発生の可能性	事業実施想定区域からの距離
日向峠－小笠木峠断層帯	福岡県糸島市大門から佐賀県鳥栖市神辺町にかけて分布する、地表で確認される長さが約 28km、北西－南東走向で一部に南西側隆起成分を伴う左横ずれ断層である。	地震の規模：M7.2 程度 地震発生確率：不明 平均活動間隔：不明 最新活動時期：不明	断層帯まで約 3km
警固断層帯	警固断層帯は、福岡市東区志賀島北西沖の玄界灘から博多湾、同市中央区、同市南区、春日市、大野城市、太宰府市を経て、筑紫野市に至る断層帯である。断層帯の長さは 55 km 程度で、概ね北西－南東方向に延びる。警固断層帯は、過去の活動時期の違いから、玄界灘から志賀島付近にかけての 2005 年の福岡県西方沖の地震の震源域にあたる北西部と、志賀島南方沖の博多湾から筑紫野市の警固断層にあたる南東部に区分される。警固断層帯は、断層帯北西部、断層帯南東部ともに左横ずれを主体とし、断層帯南東部では南西側隆起成分の縦ずれを伴う。	北西部 地震の規模：M7.0 程度 地震発生確率：不明 平均活動間隔：不明 最新活動時期：2005 年福岡県西方沖の地震  南東部 地震の規模：M7.2 程度 地震発生確率：30 年以内に 0.3%～6% 地震後経過率：0.6-1.4 平均活動間隔：約 3,100 年-5,500 年 最新活動時期：約 4,300 年前-3,400 年前	断層帯まで約 8km



出典：地震調査研究推進本部事務局ホームページ(文部科学省研究開発局地震・防災研究課)

図 3.1.4-4 活断層の位置

## 1.5 動物、植物、生態系の状況

### 1) 動物の生息状況

「福岡市環境配慮指針（改定版）」（令和3年1月福岡市環境局ホームページ）において示されている福岡市内の貴重・希少生物等のリスト、自然環境情報地図（貴重・希少生物等確認地図）より事業実施想定区域周辺における貴重・希少動物の生息状況を以下に示す。

#### (1) 哺乳類・両生類

「自然環境情報地図【西区①】貴重・希少生物等確認地図 哺乳類・爬虫類・両生類」では、東西約1.1km、南北約0.9kmのメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

哺乳類・両生類について、事業実施想定区域を含むメッシュ及びその周辺の8メッシュに貴重・希少哺乳類・両生類の生息情報はなかった。

#### (2) 爬虫類

「自然環境情報地図【西区①】貴重・希少生物等確認地図 哺乳類・爬虫類・両生類」によると、事業実施想定区域の西側のメッシュにおいて、ニホンイシガメの生息が報告されている（表3.1.5-1参照）。

表 3.1.5-1 貴重・希少な動物種の状況（爬虫類）

種名	カテゴリー			出典							
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
ニホンイシガメ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧 (NT)		○		○	○	○	○	○	○
注) カテゴリー											
福岡県RDB：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014 —爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等—（平成26年8月）											
環境省RL：環境省レッドリスト2020（令和2年3月）											
その他の指定状況：天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘											
出典											
① 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014 —爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等—（平成26年8月）											
② 福岡市環境配慮指針（平成9年3月）											
③ 自然環境調査委託 ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況等調査（平成13年3月）											
④ 平成19年度自然環境調査（ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況）委託（平成20年3月）											
⑤ 平成19年度自然環境調査（外来生物の生息状況調査）委託（平成20年3月）											
⑥ 平成24年度自然環境調査（ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況）委託（平成25年3月）											
⑦ 九州大学統合移転事業環境監視調査 平成26年度 総合報告書（平成27年9月）											
⑧ 平成29年度自然環境調査（ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況）委託（平成30年3月）											

出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（令和3年1月福岡市環境局ホームページ）

(3) 鳥類

「自然環境情報地図【西区②】貴重・希少生物等確認地図 鳥類」では、東西約 2.2km、南北約 1.8km のメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

事業実施想定区域を含むメッシュ及びその北、北東、東側のメッシュには表 3.1.5-2 に示す貴重・希少鳥類の生息が報告されている。

表 3.1.5-2 貴重・希少な動物種の状況（鳥類）

種名	カテゴリー			出典															
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
アオバズク	絶滅危惧Ⅱ類			○		○		○				○			○	○		○	○
アオバト			専門家の指摘*1			○	○	○			○		○		○	○	○		○
アマサギ	準絶滅危惧			○				○	○			○	○		○	○	○		○
イカルチドリ	絶滅危惧Ⅱ類			○		○		○				○			○	○	○		○
オオヨシキリ	準絶滅危惧			○				○				○	○	○	○	○	○	○	○
オシドリ	準絶滅危惧	情報不足 (DD)		○		○		○	○			○			○	○	○	○	○
カンムリカイツブリ	準絶滅危惧			○	○	○		○		○					○	○	○		○
キビタキ			専門家の指摘*2			○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○
クロサギ	準絶滅危惧			○				○						○		○	○	○	○
コアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国際希少野生動物種	○		○		○						○	○	○	○	○	○
コサメビタキ	情報不足							○	○					○		○	○	○	○
コシアカツバメ	準絶滅危惧							○	○					○	○	○	○	○	○
コルリ	絶滅危惧ⅠB類			○				○	○					○		○	○		○
サンコウチョウ	絶滅危惧Ⅱ類			○		○		○								○	○		○
センダイムシクイ	絶滅危惧Ⅱ類			○				○								○	○	○	○
チュウサギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧 (NT)		○		○		○	○					○	○		○	○	○
ツリスガラ	準絶滅危惧					○		○						○		○	○	○	○
ノスリ	準絶滅危惧							○	○					○		○	○	○	○
ハイタカ		準絶滅危惧 (NT)						○	○	○				○		○	○	○	○
ハチクマ	準絶滅危惧	準絶滅危惧 (NT)		○		○	○	○						○		○	○	○	○
ハマシギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧 (NT)		○				○		○				○	○	○	○	○	○
ヒクイナ	準絶滅危惧	準絶滅危惧 (NT)		○				○		○				○		○	○	○	○
フクロウ			専門家の指摘*2					○	○	○				○	○		○	○	○
ミサゴ		準絶滅危惧 (NT)						○	○	○				○	○		○	○	○
ヤイロチョウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	国内希少野生動物種	○		○		○						○		○	○		○
ヤマドリ	絶滅危惧Ⅱ類			○		○	○	○								○	○		○

注) カテゴリー  
 福岡県RDB：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2011 ―植物群落／植物／哺乳類／鳥類―（平成23年11月）  
 環境省RL：環境省レッドリスト2020（令和2年3月）  
 その他の指定状況：天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘  
 専門家の指摘  
 \*1 福岡市では確認されることが少なくなった種  
 \*2 身近な減少種  
 出典  
 ① 福岡県RDB：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2011 ―植物群落／植物／哺乳類／鳥類―（平成23年11月）  
 ② 自然環境調査委託（今津干潟における貴重鳥類調査）（平成9年3月）  
 ③ 福岡市環境配慮指針（平成9年3月）  
 ④ 自然環境調査委託 脊降山地における貴重種動物の生息状況調査（平成10年3月）  
 ⑤ 自然環境調査委託 市域における鳥類の生息状況等調査（平成11年3月）  
 ⑥ 地域生態系等調査（東平尾・金隈地域）（平成13年3月）  
 ⑦ 平成12年度鳥類生息状況解析基礎調査委託業務（平成13年3月）  
 ⑧ 地域生態系等詳細調査（東平尾・金隈地域）（平成14年3月）  
 ⑨ 市域生態系調査業務委託（平成14～15年度）  
 ⑩ 平成15年度今津干潟保全対策調査委託（平成16年3月）  
 ⑪ 環境手帳 宇美川と多々良川の合流部にすむ生き物（平成17年3月）  
 ⑫ 平成17年度自然環境調査（鳥類）委託（平成18年3月）  
 ⑬ 平成22年度自然環境調査（鳥類、昆虫類及び貴重植物）委託（平成23年3月）  
 ⑭ アイランドシティ環境モニタリング調査委託（平成5～27年度）  
 ⑮ 九州大学統合移転事業環境監視調査 平成26年度 総合報告書（平成27年9月）  
 ⑯ 平成27年度自然環境調査（鳥類）委託（平成28年3月）

出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（令和3年1月福岡市環境局ホームページ）

(4) 昆虫類

「自然環境情報地図【西区③】貴重・希少生物等確認地図 昆虫類」では、東西約 1.1km、南北約 0.9km のメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

昆虫類について、事業実施想定区域を含むメッシュ及びその周辺の 8メッシュについてみると、事業実施想定区域を含むメッシュの西、南西のメッシュにハルゼミ、北のメッシュにベニイトトンボの生息が報告されている（表 3.1.5-3 参照）。

表 3.1.5-3 貴重・希少な動物種の状況（昆虫類）

種名	カテゴリー			出典															
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
ハルゼミ	準絶滅危惧					○									○				○
ベニイトトンボ		準絶滅危惧 (NT)				○			○	○		○	○	○					○
注) カテゴリー 福岡県RDB：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014 ー爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等ー（平成26年8月） 環境省RL：環境省レッドリスト2020（令和2年3月） その他の指定状況：天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘 出典 ① 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014 ② 専門家からのヒアリング情報 ③ 福岡市環境配慮指針（平成9年3月） ④ 平成9年度自然環境調査（福岡市域における昆虫の生息状況調査）（平成9年） ⑤ 平成11年度自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査）（平成12年3月） ⑥ 平成13年度自然環境調査（ため池の生態系調査）（平成14年3月） ⑦ 市域生態系調査業務委託（平成14～15年度） ⑧ 平成14年度鉄軌道導入環境調査委託（平成15年3月） ⑨ 平成16年度自然環境調査（昆虫）委託（平成17年3月） ⑩ 平成19年度自然環境調査（外来生物の生息状況調査）委託（平成20年3月） ⑪ 平成21年度自然環境調査（昆虫類及び貴重植物）委託（平成22年3月） ⑫ 平成22年度自然環境調査（鳥類、昆虫類及び貴重植物）委託（平成23年3月） ⑬ 九州大学統合移転事業環境監視調査 平成26年度 総合報告書（平成27年9月） ⑭ 平成26年度自然環境調査（昆虫類）委託（平成27年3月） ⑮ 平成28年度自然環境調査（水生生物）委託（平成29年3月） ⑯ 平成30年度自然環境調査（昆虫類）委託（令和元年3月）																			

出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（令和3年1月福岡市環境局ホームページ）



(5) 魚類

「自然環境情報地図【西区④】貴重・希少生物等確認地図 魚類・貝類・甲殻類その他」では、東西約 1.1km、南北約 0.9km のメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

魚類について、事業実施想定区域を含むメッシュ及びその周辺の 8 メッシュについてみると、事業実施想定区域を含むメッシュの東、南東のメッシュにメダカ（ミナミメダカ）の生息が報告されている（表 3.1.5-4 参照）。

表 3.1.5-4 貴重・希少な動物種の状況（魚類）

種名	カテゴリー			出典										
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
メダカ（ミナミメダカ）	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類（VU）		○		○	○		○	○	○		○	○
				⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
				○	○			○	○		○		○	

注) カテゴリー  
 福岡県RDB：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014  
 ー爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等ー（平成26年8月）  
 環境省RL：環境省レッドリスト2020（令和2年3月）  
 その他の指定状況：天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘  
 出典  
 ① 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014  
 ② 専門家からのヒアリング情報  
 ③ 福岡市環境配慮指針（平成9年3月）  
 ④ 自然環境調査（室見川における貴重種魚類の生息状況調査）（平成11年3月）  
 ⑤ 平成11年度自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査）（平成12年3月）  
 ⑥ 自然環境調査（河川における水生生物の生息状況調査）（平成12年3月）  
 ⑦ 自然環境調査（里地の細流等における貴重種魚類の生息状況調査）（平成13年3月）  
 ⑧ 平成13年度自然環境調査（ため池の生態系調査）（平成14年3月）  
 ⑨ 平成15年度今津干潟保全対策調査委託（平成16年3月）  
 ⑩ 環境手帳 宇美川と多々良川の合流部にすむ生き物（平成17年3月）  
 ⑪ 平成17年度自然環境調査（里地の貴重種魚類の生息状況調査）委託（平成18年3月）  
 ⑫ 平成18年度自然環境調査（水生生物）委託（平成19年3月）  
 ⑬ 平成19年度自然環境調査（外来生物の生息状況調査）委託（平成20年3月）  
 ⑭ 平成19年度アイランドシティ環境モニタリング等調査委託（平成20年3月）  
 ⑮ 平成19年度エコパークゾーン環境マップ作成業務委託（平成20年3月）  
 ⑯ 平成22年度自然環境調査（里地の貴重種魚類の生息状況調査）委託（平成23年3月）  
 ⑰ 平成23年度自然環境調査（水生生物）委託（平成24年3月）  
 ⑱ アイランドシティ環境モニタリング調査委託（平成5～26年度）  
 ⑲ 九州大学統合移転事業環境監視調査 平成26年度 総合報告書（平成27年9月）  
 ⑳ 平成26年度新西部水処理センター環境モニタリング調査業務委託（平成27年3月）  
 ㉑ 平成27年度多々良川水系感潮域環境調査業務委託（平成28年3月）  
 ㉒ 平成28年度自然環境調査（水生生物）委託（平成29年3月）

出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（令和3年1月福岡市環境局ホームページ）

(6) 貝類

「自然環境情報地図【西区④】貴重・希少生物等確認地図 魚類・貝類・甲殻類その他」では、東西約 1.1km、南北約 0.9km のメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

貝類について、事業実施想定区域を含むメッシュ及びその周辺の 8 メッシュについてみると、事業実施想定区域を含むメッシュの北のメッシュにオオタニシの生息が報告されている（表 3.1.5-5 参照）。

表 3.1.5-5 貴重・希少な動物種の状況（貝類）

種名	カテゴリー			出典														
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
オオタニシ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧 (NT)		○							○							○
注) カテゴリー																		
福岡県RDB: 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014																		
—爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等— (平成26年8月)																		
環境省RL: 環境省レッドリスト2020 (令和2年3月)																		
その他の指定状況: 天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘																		
出典																		
① 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014																		
② 干潟学入門 和白干潟の生きものたち (平成6年9月)																		
③ 自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査 (干潟) (平成14年度)																		
④ 福岡市環境配慮指針 (平成9年3月)																		
⑤ 平成12年度鳥類生息状況解析基礎調査委託業務 (平成13年3月)																		
⑥ 平成15年度今津干潟保全対策調査委託 (平成16年3月)																		
⑦ 環境手帳 宇美川と多々良川の合流部にすむ生き物 (平成17年3月)																		
⑧ 平成19年度自然環境調査 (外来生物の生息状況調査) 委託 (平成20年3月)																		
⑨ 平成19年度アイランドシティ環境モニタリング等調査委託 (平成5~26年度)																		
⑩ 平成19年度エコパークゾーン環境マップ作成業務委託 (平成20年3月)																		
⑪ アイランドシティ環境モニタリング調査委託 (平成5~26年度)																		
⑫ 平成26年度新西部水処理センター環境モニタリング調査業務委託 (平成27年3月)																		
⑬ 平成27年度多々良川水系感潮域環境調査業務委託 (平成28年3月)																		
⑭ 九州大学統合移転事業環境監視調査 平成26年度 総合報告書 (平成27年9月)																		
⑮ 平成28年度自然環境調査 (水生生物) 委託 (平成29年3月)																		

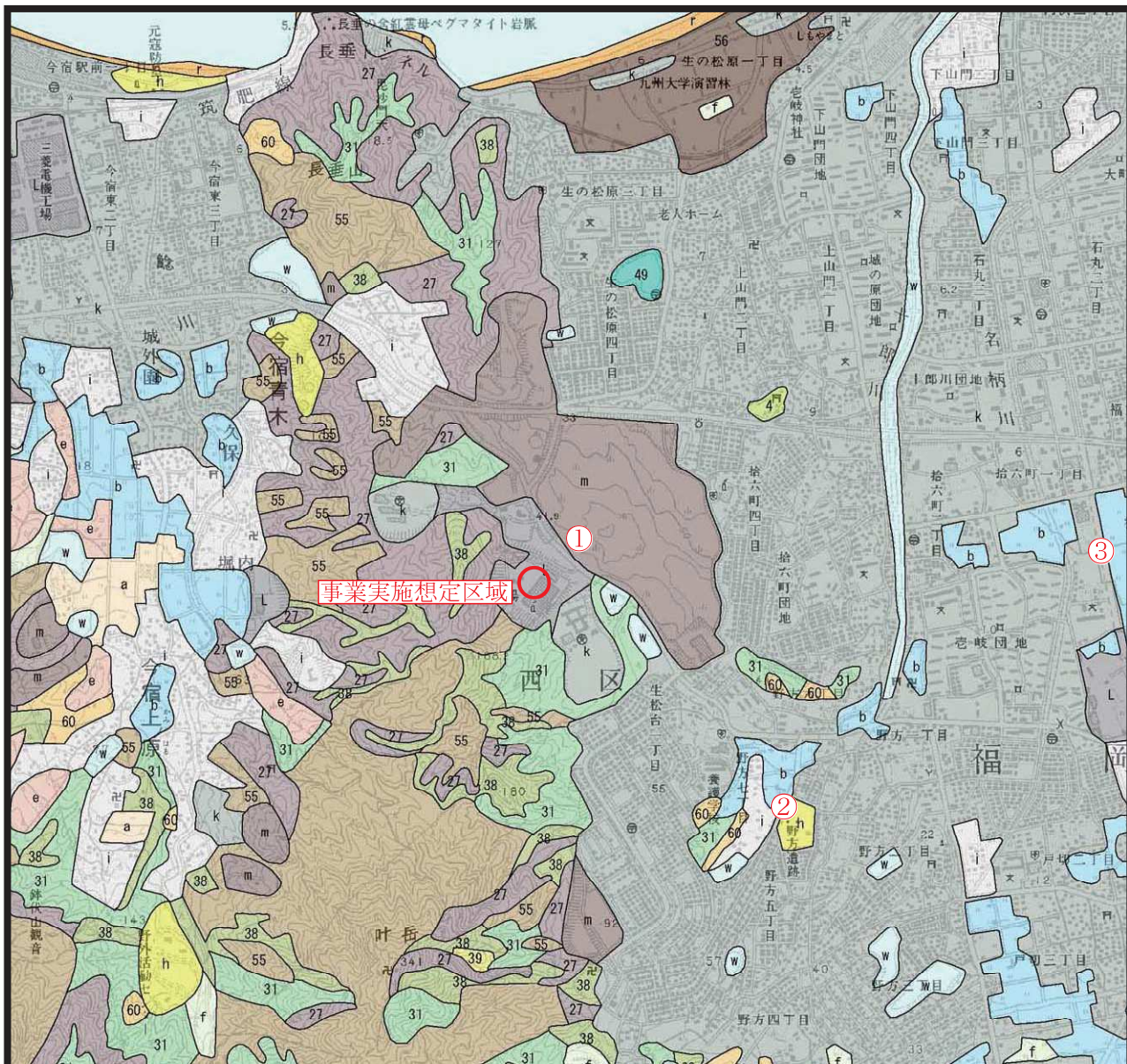
出典: 「福岡市環境配慮指針 (改定版)」 (令和3年1月福岡市環境局ホームページ)

## 2) 植物の生育状況

事業実施想定区域周辺の植生は、図 3.1.5-1 に示すとおりである。

本植生図は平成 16 年発行のものである。図において、事業実施想定区域の北から東は造成地となっているが、現在は住宅地が整備され市街地が広がっている。また、南東から北西にかけてはコナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、シイカシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、市街地などとなっており、これらの地域は現在も当時の植生と大きな変化はない。

また、「自然環境情報地図【西区⑤】貴重・希少生物等確認地図 植物・植物群落」では、事業実施想定区域の北北東約 2.0km に位置する生の松原にクロマツ群落、南西約 0.4km、1.0km の野方地区においてもクロマツ群落（ともにカテゴリⅡ：対策必要 対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する。）が確認されている。さらに、南南西、約 1.4km の叶岳山頂付近にはヤブコウジースタジイ群集が確認されている。



凡例

○：事業実施想定区域

①～③：撮影位置

4	190500	イワシデ群落 (IV)	56	540300	クロマツ植林
14	271201	ヤブコウジースダジイ群落	60	550000	竹林
21	300301	ウリノキミズキ群落	h	560100	ゴルフ場・芝地
27	400100	シイ・カシニ次林	g	560200	牧草地
31	410100	コナラ群落 (VII)	f	570100	路傍・空地雑草群落
38	410700	アカメガシワーカラスザンショウ群落	e	570200	果樹園
33	420100	アカマツ群落 (VII)	a	570300	畑雑草群落
39	450102	ネザサーススキ群落	b	570400	水田雑草群落
40	450103	チガヤーススキ群落	d	570500	放棄水田雑草群落
43	460000	伏探跡地群落 (VII)	k	580100	市街地
44	470400	ヨシクラス	i	580101	緑の多い住宅地
45	470401	ミゾパーヨシ群落	L	580300	工場地帯
46	470501	ツルヨシ群落	m	580400	造成地
49	470600	ヒルムシロクラス	w	580600	開放水域
55	540100	スギ・ヒノキ・サワラ植林	r	580700	自然裸地



S = 1:25,000



図3.1.5-1 事業実施想定区域及びその周辺における植生図

出典：自然環境保全基礎調査（第6回平成11～16年度、第7回平成17年度～）  
自然環境Web-GIS 生物多様性センター（環境省自然環境局）ホームページ

### 3) 生態系の状況

事業実施想定区域周辺における生物の生息・生育環境について、地形、地質、土壌、植生等の観点から区分し表 3.1.5-6 に示す。

事業実施想定区域は市街地と、二次林・植林の境界に位置しており、周辺の植生は、「2) 植物の生育状況」で示したとおり、北から東は住宅地、南東から北西にかけてはコナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、シイカシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、市街地などとなっている。

また、写真 3.1.5-1 には周辺から事業実施想定区域を撮影したものである。これらより、事業実施想定区域周辺では人為的な影響を受けた状況にある環境に適応した動植物を主とした陸域生態系が形成されているものと考えられる。

表 3.1.5-6 事業実施想定区域周辺の自然環境の類型区分

類型区分	地形	地質	土壌	植生
市街地	(北部) 三角州、海浜砂丘、砂浜、人工改変地、丘陵地 (東部) 扇状地、人工改変地 (事業実施想定区域) 小起伏山地または人工改変地(宅地碎石) (南部から西部) 小起伏山地	深成岩類、未固結堆積物の砂・泥・礫 (事業実施想定区域) 深成岩類(黒雲母花崗岩)	市街地その他	(北部から東部) 市街地 (南東から北西) コナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、シイカシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、市街地
ため池・河川	(十郎川水系) 低地(平野(扇状地、三角州)) (七寺川水系) 山地(小起伏山地)、 低地(平野(三角州))		(十郎川水系) 市街地 (七寺川水系) 乾性褐色森林土、褐色森林土(黄褐色系)、市街地その他	
二次林・植林	(事業実施想定区域) 人工改変地 (南部から西部) 山地、山麓地、砂礫台地		(事業実施想定区域) 市街地その他 (南部から西部) 乾性褐色森林土、褐色森林土(黄褐色系)	



写真 3.1.5-1(1/3) 事業実施想定区域を北北東から（撮影位置①）



写真 3.1.5-1(2/3) 事業実施想定区域を南東から（撮影位置②）



写真 3.1.5-1(3/3) 事業実施想定区域を東から（撮影位置③）

注：各写真ともに撮影位置は図 3.1.5-1 に示す

## 1.6 人と自然との触れ合いの活動の場及び景観の状況

### 1) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

事業実施想定区域を含む周辺の地域における人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況は、表 3.1.6-1 及び図 3.1.6-1 に示すとおりである。

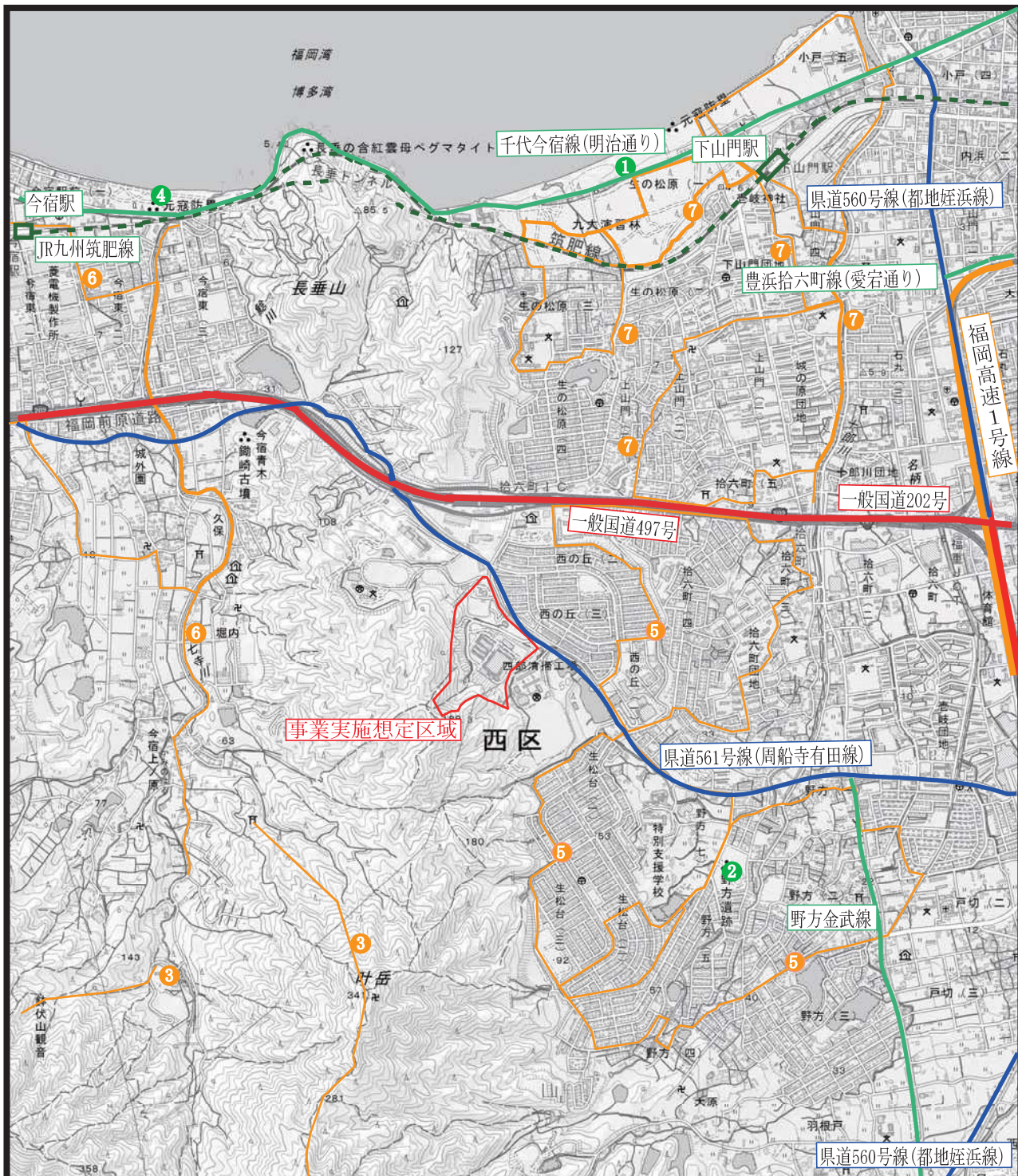
対象事業想定区域周辺は、福岡市街の西側に位置する閑静な住宅地が広がる地域であるとともに、周辺には緑豊かな森や公園、砂浜が存在しており、人と自然との触れ合いの活動の場となっている。

表 3.1.6-1 人と自然との触れ合いの活動の場の名称・概要

番号	名称	概要	事業実施想定区域からの方向・距離
1	生の松原	今津湾岸の弓状の浜にある美しい松原。松はクロマツで樹齢 100 年以上のものが多く、同じような松林が博多湾に沿って百道、箱崎、千代にもあったが、都市化で姿を消し、生の松原だけが現存する。元寇防塁（国指定史跡）が残り、能古島が眼前にあって眺めのよい海水浴場。	北北東・約 2km
2	野方遺跡（野方中央公園）	弥生後期～古墳時代の国指定史跡。住居群と高床式倉庫群が別々に環濠で区切られている。住居跡からは多くの土器、石器、鉄器が発見されている。住居群展示館や復元住居などで、当時の暮らしぶりがわかるようになっている。敷地内の公園には遊具などもあり遊べるようになっている。	南東・約 1.3km
3	今宿野外活動センター（叶岳ハイキングコース）	今宿野外活動センターは、叶岳、高祖山などに囲まれた緑豊かな施設。都心部からのアクセスの良さに加え、広大な敷地内では、日帰りの野外調理や BBQ、宿泊キャンプ、川遊び、レクリエーション等さまざまな野外活動を楽しむことができる。また、叶岳ハイキングコースの叶嶽神社遙拝所付近は春には桜やツツジが美しく色を添える。途中の展望台からは今宿一帯の景色が一望できる。	南西・約 2km
4	長垂海浜公園	毎年 8 月には「まつり今宿・納涼花火大会」が行われる。江戸時代「鳳凰の渚」と呼ばれた海岸からは博多湾・能古島・今津湾が一望でき、ジョギングや散歩、夏には海水浴も楽しめる。	北西・約 2.5km
5	西区ウォーキングコース（壱岐エリア）	エリア内を流れる室見川では、シロウオや桜並木、渡り鳥など四季折々にさまざまな姿をみることができる。また、コースの中には緑豊かな森や公園、閑静な住宅街があり、ウォーキング中の心を和ませる。国指定史跡である野方遺跡もみることができる。	北北東から南南東にかけての近隣エリア
6	西区ウォーキングコース（今宿エリア）	JR 今宿駅を起点に、歴史散策や七寺川沿い叶岳に向かって歩くコースなどがあり、叶岳からは糸島平野と今津湾を見渡す景色を楽しむことができる。	北西にかけての近隣エリア
7	西区ウォーキングコース（下山門エリア）	生の松原海岸では小戸から今津まで見わたすことができ、国指定史跡の元寇防塁がある。生の松原海岸森林公園には遊歩道が整備され、森林浴を楽しむことができる。また、エリア内には元寇防塁のほかに神社や古墳もあり歴史にふれることもできる。	北から北北東にかけての近隣エリア

注：番号は図 3.1.6-1 に対応する。

出典：「西区ウォーキングマップ」 福岡市ホームページ  
「クロスロードふくおか」 福岡県観光情報公式サイト  
「今宿. Com」 今宿商協公式サイト



凡例

: 事業実施想定区域

: 都市高速

: 国道

: 県道

: 市道

: 鉄道

: 人と自然との  
触れ合いの活動の場

: ウォーキング、  
ハイキングコース

出典：「西区ウォーキングマップ」 福岡市ホームページ  
「クロスロードふくおか」 福岡県観光情報公式サイト  
「西区登山マップ」 福岡市西区ホームページ



S = 1:25,000



「電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成」

図3.1.6-1

事業実施想定区域周辺の  
人と自然との触れ合いの活動の場



## 2) 景観の状況

事業実施想定区域を含む周辺の地域における主要な眺望点及び景観資源の分布状況は、表 3.1.6-2 及び図 3.1.6-2 に示すとおりである。

周辺の地域には、玄海国定公園として指定されている地域があり、生の松原、長垂海浜公園等が景観資源及び主要な眺望点としてあげられる。この他にも、眺望が良いことで有名な愛宕神社や展望台が設置されている小戸公園がある。また、「第3回自然環境保全基礎調査」(平成元年 環境庁)には、含紅雲母ペグマタイト岩脈が自然景観資源として掲載されている。

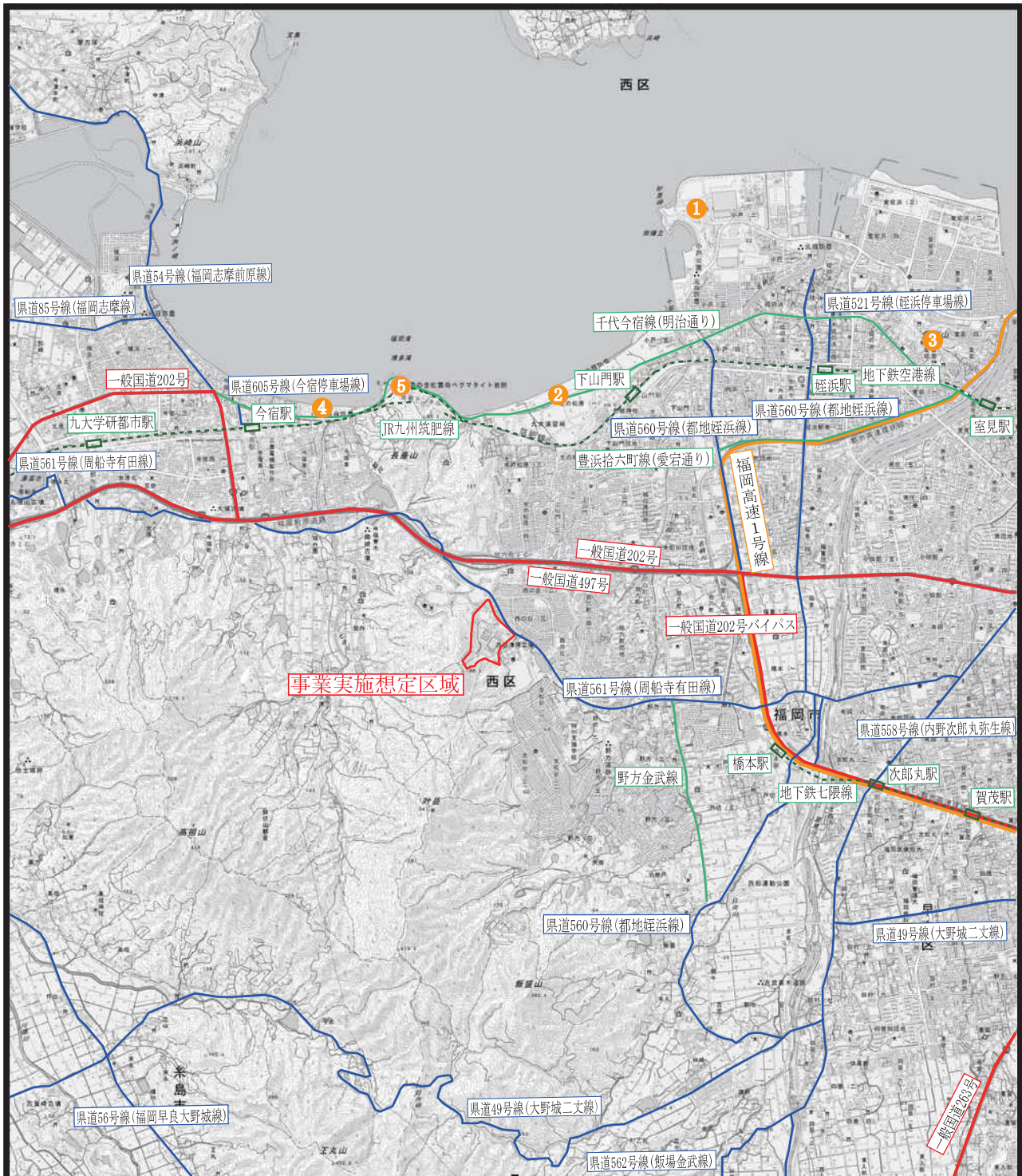
なお、事業実施想定区域を含む周辺の地域は、緑豊かな森や公園を有する閑静な住宅地等となっている。

表 3.1.6-2 主要な眺望点及び景観資源の状況

番号	区分	名称	概要	事業実施想定区域からの方向・距離
1	主要な眺望点	小戸公園 (小戸展望台)	福岡市西区の海岸線沿いに整備された総合公園。博多湾に面したこの公園からは能古島を間近に見ることができ、広大な自然の景色を堪能できる。	北北東・約 3.5km
2	景観資源 及び主要な眺望点	生の松原	白砂青松 100 選 ((社)日本の松の緑を守る会選定) にも選ばれ、海岸景観に優れる玄海国定公園区域 (第1種特別地域または普通地域) 内にある。元寇防塁 (国指定史跡) が残る。	北北東・約 2km
3		愛宕神社	鎌倉、室町幕府の奉行所である鎮西探題、九州探題が置かれていた所と言われる。連歌師宗祇も、この辺りの景色を誉めた。江戸時代の初め頃、愛宕権現と呼ばれ「猪野にや七度、香椎にや三度、愛宕さまには月参り」と歌われ親しまれている。標高 68m からの博多湾の眺望は素晴らしい。日本三大愛宕の一つに数えられ、福岡一の「初日の出」の名所として有名。高神様で願い成就を祈るため、例年 70 万人の人出で大いに賑わう。	北東・約 4.5km
4		長垂海浜公園	ジョギングや散歩、夏には海水浴も楽しめる公園。海岸景観に優れる玄海国定公園区域 (普通地域) 内にある。	北西・約 2.5km
5	景観資源	含紅雲母ペグマタイト岩脈	長垂の含紅雲母 (ペグマタイト岩脈)。「第3回自然環境保全基礎調査」(平成元年 環境庁) に自然景観資源として掲載されている岩脈である。巨晶花崗岩といい、石英・雲母など 40 種を越す鉱物を含む火成岩。国の天然記念物。	北北西・約 2.5km

注:番号は図 3.1.6-2 に対応する。

出典:「西区ウォーキングマップ」 福岡市ホームページ  
「クロスロードふくおか」 福岡県観光情報公式サイト  
「第3回自然環境保全基礎調査」 平成元年 環境庁



凡例

: 事業実施想定区域

: 都市高速

: 国道

: 県道

: 市道

: 鉄道

: 景観資源及び主要な眺望点等

出典：「西区ウォーキングマップ」 福岡市ホームページ  
「クロスロードふくおか」 福岡県観光情報公式サイト  
「第3回自然環境保全基礎調査」 平成元年 環境庁



S = 1 : 50,000



「電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成」

図3.1.6-2

事業実施想定区域周辺の景観資源と主要な眺望点等